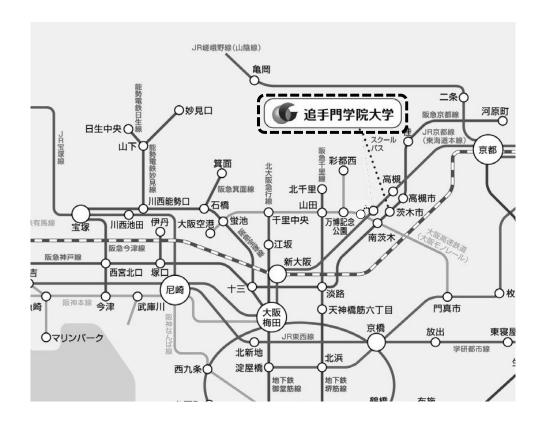
日本社会心理学会 第 59 回大会プログラム

追手門学院大学

2018年8月28日(火)・29日(水)

大会会場への交通案内①



大学には、**JR茨木駅・阪急茨木市駅**からの**路線バス**、もしくは**大学への直通バス**でお越し下さい。直通 バスは**大阪モノレール宇野辺駅**からもご利用可能です。各駅へのアクセスの仕方は下記のとおりです。

なお,カーナビ, Google map 等,地図アプリをご利用の方は茨木市安威1丁目33-2 (※正門付近)をご入力下さい。

大阪方面から

- ●JR 京都線·大阪駅 → 茨木駅 快速約12分
- ●阪急京都線·梅田駅 → 茨木市駅 特急約 16 分
- ●大阪市営堺筋線·天下茶屋駅 → 淡路駅 約23分, 阪急京都線·淡路駅 → 茨木市駅 特急約8分
- ●枚方方面から 大阪モノレール・門真市駅 → 宇野辺駅 約16分

京都方面から

- ●JR 京都線·京都駅 → 茨木駅 快速約27分
- ●阪急京都線・河原町駅 →茨木市駅 特急約27分

神戸方面から

- ●JR 神戸線・三ノ宮駅 →茨木駅 快速約 40 分
- ●阪急神戸本線·神戸三宮駅 → 十三駅 特急約 24 分, 阪急京都本線·十三駅 → 茨木市駅特急約 14 分

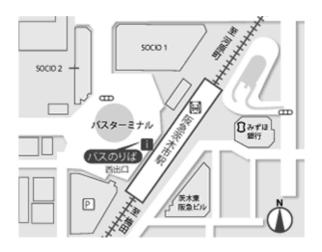
大会会場への交通案内②

●大学への直通バスをご利用の場合(所要時間20~30分:無料)

JR 茨木駅・大阪モノレール宇野辺駅からの直通バスのりば(茨木駅からは徒歩で5分ほど, 宇野辺駅からは徒歩で10分ほどかかります)

阪急茨木市駅からの直通バスのりば





●路線バスをご利用の場合(所要時間20~30分:運賃220円)

JR 茨木駅から阪急バスをご利用の場合は、駅前バスターミナル 10 番のりばから[82]系統、[88]系統にご乗車下さい。

阪急茨木市駅から阪急バスをご利用の場合は、駅 前バスターミナル 2番のりばから[82]系統にご乗車 下さい。

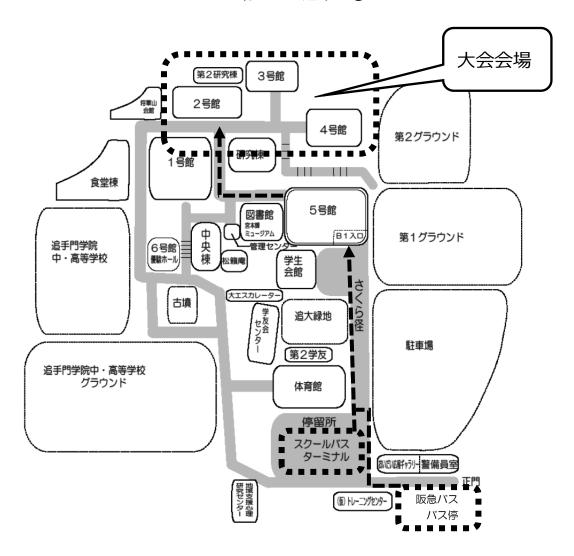


※バスの運行スケジュールは, 大会 Web サイト, メールニュースでお知らせします。

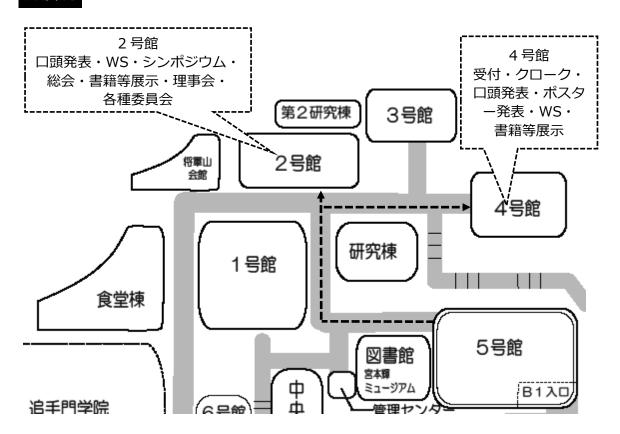
●タクシーご利用の場合

各駅前から追手門学院大学まで約20分,1,800円ほどの運賃です。

大会会場への交通案内③



- ●阪急バスのバス停, スクールバスターミナルに到着した後, 駐車場を右手に見ながら, 5 号館というビルを目指してください。
- ●5 号館に着いたら(着いた先は B1 になります), エレベーターで 5 階まで上がってください。
- ●エレベーターを出て、右手に進み、左に折れて、自動ドアから外に出ます。レンガ張りの道を直進し、突き当りのビル(1号館)を右に進むと学会会場に着きます。
- ●学会会場の詳細については、次のページをご覧下さい。



受付4 号館 4F 玄関クローク4 号館 4404

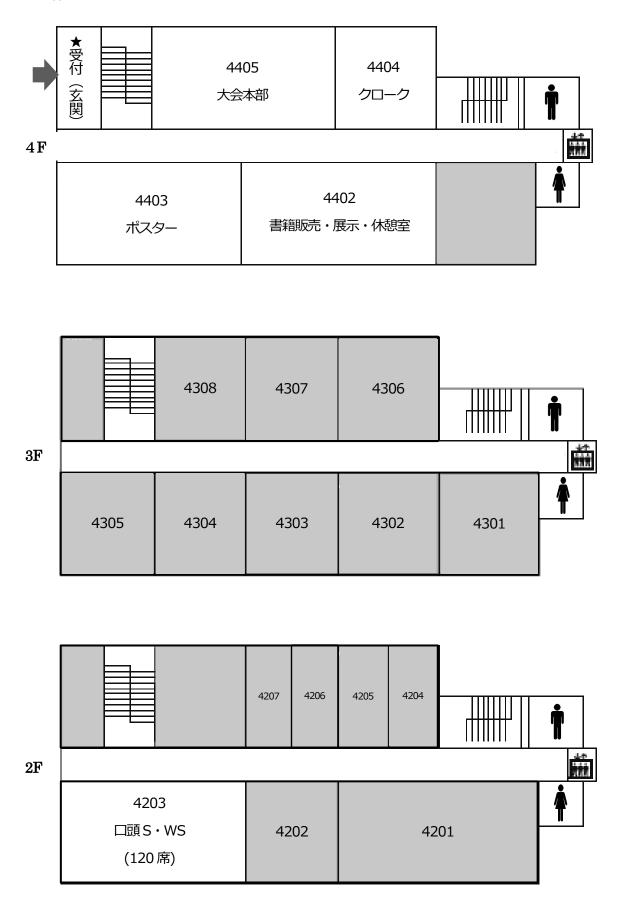
口頭発表·WS 4 号館 4203, 2 号館 2301, 2402, 2404

ポスター発表 4 号館 4403 シンポジウム 2 号館 2404 総会 2 号館 2404

休憩室 4 号館 4402, 2 号館 2310 書籍等展示 4 号館 4402, 2 号館 2311

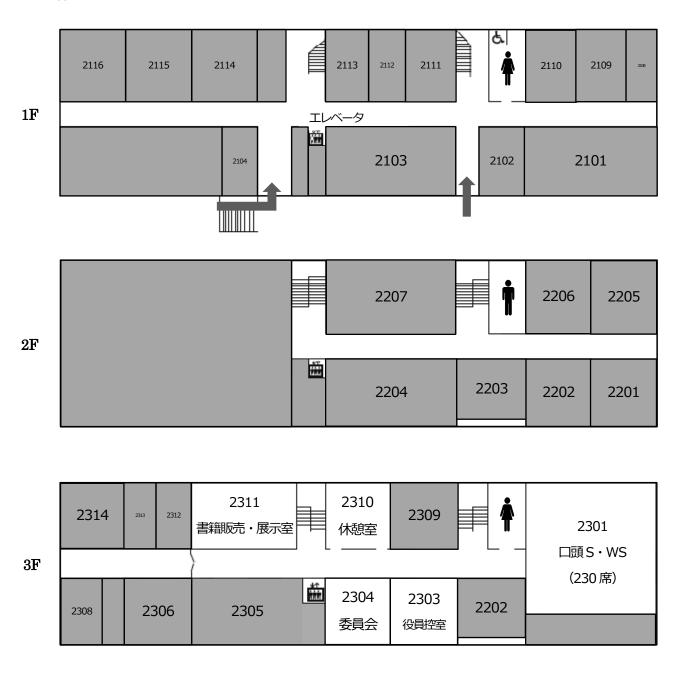


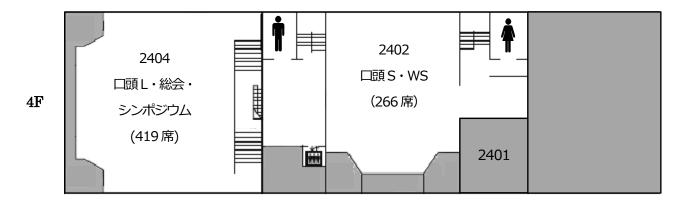
4号館





2号館







大会に関するご案内

1. 受付

受付は、両日ともに8時15分から4号館4階玄関ホールにて行います。予約参加の方は、プログラムに同封してある名札を必ずご持参いただき、受付付近で大会用ネームホルダーを受け取っていただければ、受付の必要はありません(名札を紛失された方は受付でその旨お申し出ください)。当日参加の方は、受付で参加申込用紙にご記入いただき、参加費をお支払いください。大会用ネームホルダーを受付付近にご用意いたしますので、ご自身で名札にお名前を記入してください。大会会場内では、名札を必ず着用してください。臨時会員、賛助会員の方は専用受付にお越しください。

2. 諸費用

①大会参加費(当日)	正会員(一般)	10,000 円
	正会員(院生)	6,000 円
	準会員・学部学生(要学生証呈示)	3,000 円
	臨時会員	10,000 円
	高校生以下(要学生証等呈示)	無料
②論文集購入費(当日)		6,000 円

※名誉会員の方は、大会参加費・論文集購入費は無料です。

3. 総会・表彰式

1日目の13時00分より,2号館4階2404教室にて開催します。

4. 研究発表・ワークショップ

口頭発表とワークショップは, 2 号館 2404, 2402, 2301 教室と 4 号館 4203 教室で行います。 ポスター発表は, 4 号館 4403 教室で行います。

5. 常任理事会企画シンポジウム

1日目の14時40分より,2号館2404教室にて,常任理事会企画シンポジウムを開催します。



6. クローク

クロークは、4号館4階4404教室に設置します。お預かり時間は、1日目は8時15分から18時15分まで、2 日目は8時15分から16時までです。必ず当日中にお引き取りください。なお、2日目は片付けの都合上、16時にはクロークを閉めさせていただきますので、お荷物はワークショップ開始前にお引き取りくださいますよう、お願いいたします。貴重品やパソコンはお預かりできません。

7. 休憩室・書籍販売・機器展示

大会期間中は、4号館4402教室、2号館2310教室に休憩室を、4号館4402、2号館2311教室に書籍販売・機器展示コーナーを設けます。休憩室では飲み物と小菓子をご提供します。休憩室等の開室は1日目、2日目ともに8時30分から17時までです。

8. 昼食・売店等

会場付近には飲食店はありません。1日目は、総会会場にて弁当と飲み物をご提供します。2日目は、学内の食 堂棟の利用が可能です。また、学内のコンビニエンスストアのご利用も可能です。

9. 喫煙場所

追手門学院大学内は、屋外・屋内数カ所に設置された喫煙スペース以外は全面禁煙となっています。指定場所以外での喫煙はご遠慮ください。

10. 託児サービス

大会期間中,月齢2ヶ月以上12歳(小学校6年生)までのお子様を対象とした託児所を設置します。時間は,1 日目は8時30分~18時05分、2日目は8時30分~17時55分までを予定しています。場所は申込者に別途お知らせします。申込方法等は「託児のご案内」ページ、大会Webサイトをご参照ください。

11. 掲示板およびコミュニケーション・ボード

掲示板とコミュニケーション・ボードを、4 号館玄関ホール付近に設置します。大会本部からの連絡事項を掲示します。また、コミュニケーション・ボードには、研究に関する事柄であれば自由に掲示できます。

12. ソーシャルメディア利用についてのお願い

ソーシャルメディア(Twiter や Facebook など)において、第三者が、研究発表の内容を録音・録画・撮影したり、中継・実況・報告等をオンラインで公開する場合は、たとえ用途が個人用であったとしても、事前に発表者の許可を得てください。また、発表者も、特にそれを抑制したい場合には、ご自身の態度の明示にご協力ください。参加者相互が気分を害することがないよう、充分にご配慮ください。



13. スタッフ・大会本部・緊急連絡先

スタッフは STAFF と書かれたネームホルダーを身につけております。ご用の際はお気軽にお声がけください。大会本部は、4 号館 4405 教室に設けます。会場外からの緊急のご連絡は、jssp2018@ml.otemon.ac.jpまでお願いします。

14. 常任理事会・理事会・編集委員会

大会前日の8月27日(月)に2号館3階2304教室で開催されます。詳しくは各連絡用メーリングリストでご案内します。

学会賞選考委員会	12:00-13:00	2 号館 3 階 2304 教室
編集委員会	13:00-14:00	JJ
常任理事会	14:00-16:00	JJ
理事会	16:00-18:00	<i>II</i>

※理事用の控室として2号館3階2303教室を用意しております。会議開始までの待機用にご利用ください。

発表者へのご案内

1. 口頭発表

受付と発表準備

発表者は可能な限りセッション開始 10 分前までにご来場ください。座長は全発表者の来場を確認してください。プレゼンテーションに備え付け PC をご利用の場合はデータをデスクトップ上にコピーしてください(セッション終了後すぐに準備委員会の責任において削除します)。ご自身の機器をご利用の場合は、必ずセッション開始前に接続確認をしてください。

発表成立の要件

(a)発表論文集への論文掲載, (b)当日の発表と討論への参加の両件を満たすことで,公式発表として認められます。当日の発表と討論は,責任発表者(プログラム中の〇印)が行ってください。

機器

各会場にはプロジェクタとスクリーンが設置されています。ノート PC(OS: Windows7/10, Microsoft Office PowerPoint2016)を用意します。データは USB メモリでご持参ください。Mac や iPad 等の場合はお手持ちのものをお使いください(プロジェクタとの接続アダプタはご用意できません)。レーザーポインタもご準備します。

時間

ショートスピーチセッションでの1件あたりの持ち時間は20分で,発表時間15分,質疑応答5分です。時間厳守へのご協力をお願いします。発表中は,以下のとおり合図をします。

1 鈴 10 分経過, 2 鈴 15 分経過(発表終了), 3 鈴 20 分経過(質疑応答終了)

ロングスピーチセッションでの1件あたりの持ち時間は40分です。発表時間と質疑応答時間を区別せず、フリーディスカッション形式とします。座長は置きませんので、発表者自身による司会で進めて下さい。時間厳守へのご協力をお願いします。発表中は、以下のとおり合図をします。

1 鈴 35 分経過(終了の予鈴) 2 鈴 40 分経過(発表終了)

配布資料

各自で必要と思われる部数をご準備の上,発表会場にご持参ください。会場付近にコピー機はありません。 セッション開始前に配布資料を会場係にお渡しいただければ配布をお手伝いし、セッション開始後は会場出 入口付近に置かせていただきます。

会場レイアウト

会場により、規模や座席配置等が異なります。会場案内平面図に収容定員など参考情報を記載しておりますのでご確認ください。

2. ポスター発表

受付

発表者は、セッション開始5分前までにポスター会場前の発表受付にお越し下さい。発表者用のネームプレートをお渡しします。受付は、各セッション開始20分前から開始します。

発表成立の要件

(a)発表論文集への論文掲載, (b)発表が割り当てられたセッションでの 90 分間のポスター掲示, (c)指定された 45 分間の在席, および(d)質問者との個別討論への参加の 4 件を満たすことで, 公式発表として認められます。 当日の発表と討論は, 責任発表者(プログラム中の〇印)が行ってください。

掲示

ポスターは「A0 サイズ縦長」以内としてください。パネル上部に発表番号を掲示してありますので、所定の位置をご利用ください。画鋲はポスター会場にご用意します。ポスターの最上段には「題目」、「氏名」、「所属」を明記してください。

ポスターセッション間の時間間隔が短くなっていますので、セッション終了後は速やかに撤収し、次セッションの発表者との交代をスムーズに行って下さい。両日ともに、最終セッション終了後、撤収されなかったポスターは会期終了後に大会準備委員会が廃棄します。

在席責任時間

1つのセッションは90分です。在席責任時間は、発表番号(ポスター発表セッション番号に続く2桁の数字) が奇数の方はセッション開始10分後から45分間、偶数の方はセッション開始35分後から45分間です。

3. 連名発表者による代行と発表取消

責任発表者がやむを得ない事情により欠席する場合,準備委員会の事前の承認を得た上で,連名発表者が発表を代行することができます。承認を得ていない場合,公式発表として認められないことがあります。また、口頭発表において発表の取消があった場合,その後の発表スケジュールの繰り上げは行いません。座長の指示に従い、討論や休憩などの時間にあててください。代行や取り消しについては、早めに準備委員会までご連絡ください。

4. ワークショップ

時間

1企画全体で90分とします。企画者や司会者のもとで自由に進行していただきます。終了時間は厳守してください。

機器

各会場にはプロジェクタとスクリーンが設置されています。ノート PC(OS: Windows7/10, Microsoft Office PowerPoint2016)を用意しますので、データは USB メモリでご持参ください。Mac iPad 等の場合はお手持ちのものをお使いください(プロジェクタとの接続アダプタは用意できません)。レーザーポインタもご準備します。 備え付け PC をご利用の場合はデータをデスクトップ上にコピーしていただいてかまいません。 セッション終了後すぐに準備委員会の責任において削除します。

配布資料

各自で必要部数をご準備の上、発表会場にご持参ください。ワークショップ開始前に会場係にお渡しいただければ配布をお手伝いし、ワークショップ開始後は会場出入口付近に置かせていただきます。

会場レイアウト

会場により異なります。会場案内平面図に収容定員や特徴を記載しております。

打ち合わせスペース

ワークショップの打ち合わせにご利用いただける部屋については、企画者に個別にご連絡いたします。複数のワークショップの共用となる場合もありますのでご了承ください。

5. ご連絡・お問い合わせ

大会準備委員会へのご連絡は、E-mail(jssp2018@ml.otemon.ac.jp)でお願いします。大会開催中は大会本部(4号館4405教室)にお越しいただいても結構です。交通機関の遅延や事故等による不測の事態により、ご自身の研究発表セッションの開始予定時間に間に合わない可能性が生じた場合は、なるべく早くご連絡ください。

託児のご案内

大会期間中,月齢2ヶ月以上12歳(小学校6年生)までのお子様を対象とした託児室を設置します。託児室の利用を検討されている方は,以下をご覧になり,必要な情報を大会準備委員会まで電子メールでお知らせください。当日の要領など詳細については個別にご連絡させていただきます。ご質問なども遠慮なくお知らせください。

準備の都合上、お申し込みは 8月6日(月)までにお願いします。この日までにご予定がはっきりしない場合はお早めにご相談ください。

1. 託児料

1日につき1,000円

2. 託児時間

両日ともに、プログラム開始30分前から終了15分後まで

1日目:8時30分~18時05分 2日目:8時30分~17時55分

3. 託児場所

追手門学院大学2号館(具体的な場所はお申し込みをいただいた方に別途お知らせします)

4. 託児委託先

ウィズグループ(公益社団法人 全国保育サービス協会正会員)

5. ご連絡いただきたい内容とご連絡先

- (1)託児を希望されるお子様の大会時の年齢(3歳未満の場合は月齢まで)
- (2)お子様のお名前と性別
- (3)保護者氏名と携帯電話番号

6. 申し込み先

大会準備委員会 jssp2018@ml.otemon.ac.jp

7. 申し込み締め切り

8月6日(月)

この日までに予定がはっきりしない場合は、その旨を早めにご相談ください。

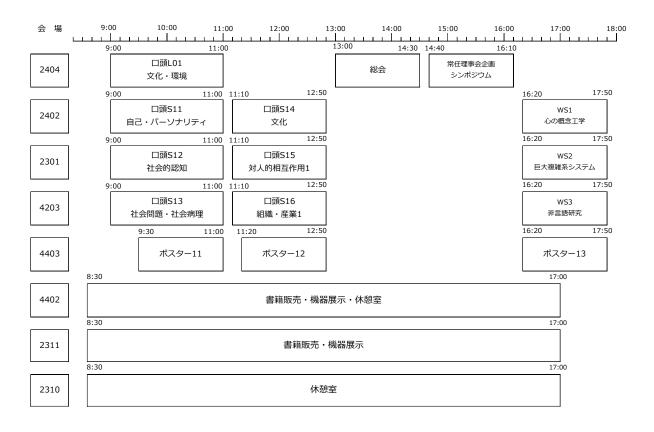
備考

本サービス実施には日本社会心理学会の大会時託児室設置費補助金(20万円)を活用しています。 託児料は、大会における託児室設置(暫定)ガイドライン(2004年7月18日総会決定)に基づくものです。



第1日目 8月28日(火)

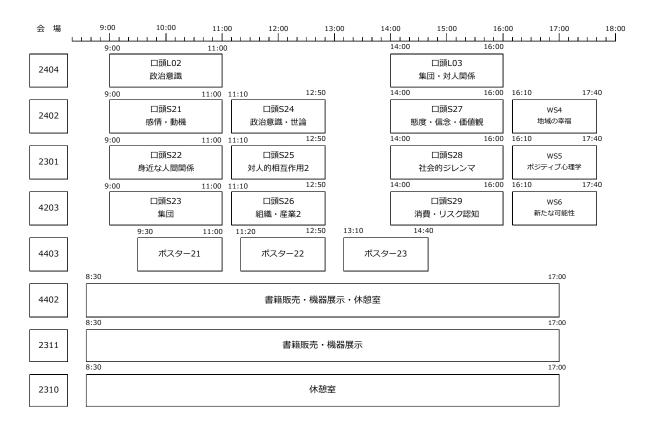
受付開始:8時15分(4号館4階玄関)





第2日目 8月29日(水)

受付開始:8時15分(4号館4階玄関)



シンポジウム

第1日(8月28日) 14:40~16:10 2号館4F2404

社会心理学を語ろう

企画者: 日本社会心理学会常任理事会

司会者: 浦光博(追手門学院大学)

話題提供者: 大坪 庸介(神戸大学)

相馬 敏彦 (広島大学)

三浦 麻子 (関西学院大学・大阪大学)

概要

本学会の基本コンセプトは「社会心理学を語ろう」です。本シンポジウムでもこのコンセプトをメインテーマとし、これからの社会心理学の方向性を考える際の重要なテーマとなるであろう「生物-心理-社会モデル」「社会実装」「研究法」をサブテーマとしました。それぞれに関連して活発な研究活動を続けておられる3名の気鋭の研究者に、ご自身の研究実践を踏まえて大いに語っていただき、ディスカッションのきっかけにしたいと考えています。

大坪 庸介 氏 「生物-心理-社会モデルを語ろう:生命科学と社会科学をつなぐ"にかわ"としての社会心理学」

近年、神経科学・社会医学のような社会心理学に近い生命科学分野の研究が注目を集めている。一方、社会心理学はこれまでも法・経済・国際関係といった社会科学の諸領域と近い関係にあった。それでは、生命科学と社会科学という2つの領域のいずれにも近い社会心理学は、両分野を結びつけ新しい学際的研究を実現するための"にかわ"になり得るのだろうか。本発表では、"にかわ"としての社会心理学の可能性について考えてみたい。

相馬 敏彦 氏 「社会心理学の社会実装を語ろう: 起きる前の DV を防ぐ、防ぐための資源をはぐくむ」

恋人や夫婦間での暴力(DV)は、関係が継続される中で生じた「結果」の一つである。こう捉えると、対人関係の維持や、葛藤や紛争の心理プロセスを研究対象に含む社会心理学にはDV 予防に有効な知見や研究法が豊富にある。特に「未然に防ぐ」という一次予防アプローチとの親和性は高い。そこで、予防プログラムの開発、実施に至るこれまでの取り組みを報告し、社会実装という側面からみた社会心理学のもつ可能性を考えたい。

三浦 麻子 氏 「社会心理学の研究法を語ろう:心理学研究の心理学とオープンデータ」

「社会心理学には、社会心理学全体に適用できる発見や一般理論はない」(岡, 2016)という。これをして心理学と言いながら理(ことわり)を追究しない学問と揶揄するか、特定のドグマに囚われない学問とむしろそれを強みとするか。ここでは後者の立場から、ではその強みを活かすためにわれわれは何に注意を向けるべきかを「心理学研究の心理学」「オープンデータ」という2つの切り口から考えたい。

WS1 ワークショップ 第1日 (8月28日) 16:20~17:50 2 号館 4F 2402

「心」の概念工学

企画者: 唐沢 かおり (東京大学)・戸田山 和久 (名古屋大学)

司会者: 唐沢かおり(東京大学)

話題提供者: 戸田山和久(名古屋大学)

橋本 剛明 (東京大学)

鈴木貴之(東京大学・非会員)

指定討論者: 太田 紘史(新潟大学: 非会員)

概要

社会心理学は、日常的に私たちが使用している「概念」について、その認知や理解の背後にある構造を探求し、その成果を社会的行動の機序の解明や実社会の課題解決に用いてきた――いわば「概念を科学」してきた――領域である。概念工学は、このような社会心理学と、概念分析に携わってきた哲学との協同による展開の一つであり、「われわれの生にとって、あるいは人類の生存にとって重要な諸概念を、よりよい社会やよりよい個人の生き方に貢献することが可能となるように、設計ないし改訂(つまりエンジニアリング)することを目指す」プロジェクトである。

概念工学の対象となるべき「概念」は多数存在するが、本ワークショップでは、抽象論を避け具体的な課題を明確化するという目論見のもと、「心」の概念工学をターゲットとする。近年、心の知覚が道徳的判断や行動に影響することを示す実証的知見が積み重なっている。私たちが、心をどのようなものとして理解しているのかを明らかにした上で、その理解を基盤に「知覚される心」概念を適切に構築することは、社会的関係の安定、支援や加害、また社会秩序と個人の自由など、「よりよい社会や個人の生き方」とかかわる緒問題の考察に不可欠であり、まさに概念工学が取り組むべき対象としてふさわしい。さらに、「心」は心理学者が直接の探求を行っている対象でもあり、その機能に関する知見と、素朴な心概念の理解との連携という課題についても、概念工学のもとで考察することができるだろう。

話題提供では、戸田山が概念工学の目的と社会心理学がなしうる貢献への期待を述べる。次いで「心」の知覚と道徳的判断との関係に関する社会心理学的知見についての展望と課題の整理を橋本が、社会心理学の知見を概念工学に用いる際の課題と哲学の貢献を鈴木が論ずる。指定討論では、心の哲学、道徳心理学に詳しい太田が、哲学と社会心理学の協同がなしうる可能性について考察を行う。これらの議論と討論を踏まえ、社会心理学と概念との関わりや、「よりよい」という規範的問題に対して取り得る立ち位置などについても、参加者各位と議論を深めたい。

WS2 ワークショップ 第1日 (8月28日) 16:20~17:50 2 号館 3F 2301

巨大・複雑系システムにおけるリスク想定:

宇宙分野と原子力分野のコラボレーションをもとに

企画者: 木下 冨雄(京都大学名誉教授・名誉会員)

司会者: 木下 冨雄(京都大学名誉教授・名誉会員)

発表者: 中村 大地 (宇宙航空研究開発機構 (JAXA)・非会員)

作田 博 (原子力安全システム研究所 (INSS))

指定討論者: 北村 正晴 (東北大学名誉教授・非会員)

概要

事故や災害の発生可能性がある組織において、そのリスクを事前にどのように想定するか、また想定外のリスクが現実化したときそれにどう対応するかという問題は、常に大きな問いかけとして議論されてきた。ただ残念なことに、これらの議論の多くは個別組織の範囲に留まっていることが多かったと思う。今回のワークショップではその反省に基づき、宇宙分野と原子力分野という二つの領域をコラボレーションさせることによって、問題点をより一般化させることを試みる。

宇宙と原子力は、いずれも50年ほど前から急速に発展したという、比較的歴史が浅い技術系の分野である。そして両者ともその組織や予算規模は大きく、巨大で先端的で複雑なシステムを構成しているという意味で共通性がある。また内部に潜在的なリスクが存在すること、したがって想定外の過酷事故が発生すると被害が甚大という点でも両分野は類似している。

しかし両者には大きく異なる点もある。たとえばその存在理念に関して、宇宙分野では未知の空間に進出することによって研究成果を挙げることが重視されるが、原子力分野では発電によって国家のエネルギーセキュリティに貢献し、かつ発電によって利益を得るという実利性が重視される。結果として両分野の組織イメージも異なり、宇宙分野は夢のあるポジティブなイメージを抱かせるが、原子力分野はその必要性は認めるが怖いという、ややネガティブなイメージを持たれることが多い。

このワークショップの目的は、私が長年関わってきた宇宙と原子力という二つの組織を対比 しながら、巨大・複雑系システムにおける想定問題を議論するところにある。組織の差を超え る共通点と相違点は何かという議論を通じて、問題を深化させることにしたい。

WS3 ワークショップ 第1日 (8月28日) 16:20~17:50 4号館2F4203

非言語研究のこれまで, いま, これから

企画者: 藤原 健(大阪経済大学)

司会者: 藤原 健(大阪経済大学)

話題提供者: 藤原 健(大阪経済大学)

横光 健吾 (立命館大学)

小川 一美 (愛知淑徳大学)

指定討論者: 結城 雅樹 (北海道大学)

概要

非言語研究が社会心理学分野で集中的に推し進められたのは第二次世界大戦以降,1960年代のことである (Knap, Hall, & Horgan, 2014)。 Exline による視線の研究, Sommer のパーソナルスペースを初めてとして, Argyle, Kendon, Scheflen, Mehrabian, Rosenthal といった名だたる研究者たちが活躍したのも同時期であった。これに対して遅れること 10 余年,日本でも多くの非言語研究が行われ、実験社会心理学研究をはじめとした学術誌にその多くが掲載された。しかし、対人コミュニケーションや非言語行動を対象とする研究は、主には実験実施および行動変数抽出にかかる費用対効果の面からその研究数は年を追うごとに減少し (Baumeister, Vohs, & Funder, 2007; Patterson, 2008),2018年1月に行われた SPSPでは、約2,000件の発表がある中でNonverbalのカテゴリーで登録された研究はわずか5件しかなかった (うち2件は小川と藤原によるものであった)。

本企画では、方法論的な困難さを抱える非言語研究について、その過去、及び現状を踏まえると共に、どのような角度からこれを克服し、社会心理学分野の発展に貢献できるのかを議論したい。藤原は、非言語研究の歴史的変遷に触れつつ、行動変数を抽出する最新の方法について報告する。横光は、嗜好品の有無によって対人コミュニケーションがどのように活性化されるのかについて実験結果を報告するとともに、今後の対人コミュニケーション研究における考えを述べる。小川は、非言語研究を俯瞰的に捉える立場から非言語行動の知識を対象とした研究を報告し、さらに非言語研究の今後の方向性に関する考えを述べる。

指定討論の結城先生には、社会生態学的な視点からコメントを頂き、非言語研究が目指すべき今後の理論的展開を描きたい。さらに、フロアとの質疑応答を通して、非言語研究あるいは対人コミュニケーション研究において欠けている点を精査すると共に、今後期待される展開について明確にしていくことを目指す。

WS4 ワークショップ 第2日 (8月29日) 16:10~17:40 2号館4F 2402

「地域の幸福」の多面的測定:地域内外の社会関係資本からの検討

企画者: 内田 由紀子(京都大学)

司会者: 福島 慎太郎(東京女子大学)

話題提供者: 内田 由紀子(京都大学)

一言 英文(福岡大学)

箕浦 有希久 (同志社大学)

指定討論者: 前野 隆司 (慶應義塾大学・非会員)

概要

これまで地域の状態を測定する手法としては経済状態や人口動態などのマクロ要因で測定が行われるか、あるいは住民の個人の状態の平均値を用いて(たとえば満足度や幸福度の平均値)測定されることが多かった。しかし、実際には地域の文化価値などを含むマクロな状態と個人の状態は相互作用するものであり、同時に検討ができるようなフレームワークや測定が必要である。本ワークショップは地域の指標が「モノの豊かさ」から「こころの豊かさ」にシフトしている中、JST RISTEX が実施する「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域の研究開発プロジェクト「地域の幸福の多面的側面の測定と持続可能な多世代共創社会に向けての実践的フィードバック」(研究代表者:内田由紀子)において H27 年度より実施している取り組みの中から、いくつかの知見を紹介する。最後に社会心理学とは異なる立場(システムデザイン・社会工学・幸福学)から、一連の研究についての考察をいただく。

発表1においては、西日本の約500集落をサンプリングした調査から、地域内の信頼関係が地域の開放性(ほかの土地に住む人や、移住者への開放的な態度)や幸福感と関連する研究の知見を紹介する。また、地域内信頼が地域の幸福とかかわることが日米で見られる一方で、地域内信頼と開放性との関連においては日本で確認されるような正の関係が北米では見られないというデータを示し、こうした差異が現れる原因(調整要因)について検討を行う。発表2においては、26集落を対象とした生活環境の評定(集落内にある住居の様子等)と、集落住民からサンプリングされた心理調査データと紐付けした検討の結果から、農村的な特徴を持つ地域では地域行事活動への参加と町外他者とのかかわり人数が多くあるという点で地域内の結びつきと開放性が両立し、地域内住民との水平的な関係性があることなどが示された調査の結果を提示する。発表3においては地域の幸福を支える要因としての京都市内(学区のまとまりが強い都市的地域)ならびに京丹後市(農村地域)や岩手県滝沢市(移住者が多い地域)における聞き取り調査をもとに、地域の開放性を支える促進要因と阻害要因を考察する。最後に、地域をささえる内部での信頼関係と開放性・多様性をみとめる状況が発生する要因についてのディスカッションを行う。

WS5 ワークショップ 第2日(8月29日) 16:10~17:40 2号館3F2301

ポジティブ心理学は社会心理学にどのような示唆をもたらすか?: 強み研究に焦点を当てて

企画者: 竹橋 洋毅 (関西福祉科学大学)・吉野 優香 (筑波大学)・島井 哲志 (北星学園大学)

話題提供者: 久保 尊洋(筑波大学・非会員)

吉野 優香(筑波大学)

津田恭充(関西福祉科学大学・非会員)

指定討論者: 大坊 郁夫 (北星学園大学・名誉会員)

島井 哲志 (北星学園大学)

概要

ポジティブ心理学は、人のもつさまざまなポジティブな心の働きに注目する研究・実践のムーブメントである。欧米ではポジティブ心理学に基づく健康増進や教育活動などが広まりつつあり、わが国においてもポジティブ心理学は公認心理師資格のために教えるべき事項に含まれており、その重要性は認識されつつある。ポジティブ心理学では人の長所や人徳が中心的なテーマのひとつであり、それらをまとめて人格的強み(character strengths)と呼ぶ。Peterson らは様々な文化に共通する普遍的な強みとは何かについて検討した上で、一定の基準をクリアした 24種類の人格的強みを記した 800 ページにおよぶハンドブックを作成している。

人格的強みの研究は、単に「どれくらいポジティブであるか」という抽象度の高い視点(例えば、自尊心)を超えて、「どのような意味においてポジティブであるか」というより具体的な特性に焦点をあて、その特性がもつ性質・機能について明らかにしようと試みるものである。例えば、Duckworth と Peterson ら(2007)の研究では、グリット(長期目標への情熱と根性)がセルフコントロール、勤勉性、知的能力よりも長期的な成果を予測する可能性が示唆されている。このような具体的な特性に着目したアプローチは、人間行動の説明・予測・制御の精度を向上しうるという点において有用であると考えられる。

本ワークショップでは、人のもつ具体的なポジティブな資質に関する最先端の研究成果を共有し、それらが社会心理学にもたらす示唆について議論したいと考えている。はじめに、竹橋洋毅氏が人格的強みの研究動向と企画趣旨について説明する。その後、3人の話題提供者から、個別的な強みについての研究成果を共有いただく。久保尊洋氏からは「熱意」、吉野優香氏からは「感謝心」、津田恭充氏からは「謙虚」の強みについての知見を紹介いただく。指定討論者としては大坊郁夫氏と島井哲志氏から、強み研究の「社会心理学への貢献可能性」という観点からディスカッションいただく。最後に、フロアの皆さんとの議論を通じて、強み研究の意義と面白さについて共有したいと考えている。

WS6 ワークショップ 第2日(8月29日) 16:10~17:40 4号館2F4203

多角的検証に根ざした社会心理学の新たな可能性に向けて:

―若手による若手のための―

企画者: 仁科 国之(玉川大学)・須山 巨基(北海道大学)

司会者: 須山 巨基(北海道大学)

話題提供者: 松永 倫子(京都大学・非会員)

仁科 国之(玉川大学)

高橋 奈々 (慶應義塾大学・非会員)

指定討論者: 竹村 幸祐(滋賀大学)

概要

社会心理学は主要なトピックの多角的な検証のために学際的な交流を定期的にもち、その中で活発な議論をおこなうことで新たな分野を開拓してきた。たとえば、社会心理学の黎明期では物理学と接触して集団力学を創始し、計算機科学の発想から社会認知を立ち上げた。ほかにも経済学(協力)、人類学(文化)、生物学(進化)、認知科学(神経)などとともに、新たな理論や実験方法を模索し社会科学的に重要な知見を数多く生み出してきた。

本学会においてもこうした理論や方法論の多様化によって生まれた知見や発展した問いなどが活発に議論されている。しかし、他領域の研究者と能動的に交流を持とうとしなければ、新しい動向や、改良された方法などを継続的に知ることはできない。そこで本ワークショップでは発達・神経・生物科学における若手の研究者をよび、彼らが行っている最新の研究を紹介してもらう。そして、他領域の関心や使われている手法を学ぶとともに他領域の研究者と接する機会を設け、社会心理学的な問いをより多角的に探求できるようなプラットフォームの構築を目指す。

最初の発表者である松永氏は母子関係における養育経験について発達科学の視点から研究しており、本発表では母親の心身の変化にオキシトシン、自律神経系の反応、情動処理がどのように関連しているか最新の研究を紹介してもらう。次の発表者である仁科氏は神経科学の観点から信頼のメカニズムを検討しており、オキシトシン受容体遺伝子が信頼行動にどのような影響を与えるか検討した一連の実験を紹介してもらう。最後の発表者である高橋氏は生物科学、とりわけ行動生態学の視点から性差の研究を進めており、本ワークショップではカラス科における社会的優劣順位に対する敏感さや闘争、親和行動の性差について言及し、それらの行動が進化した理由について考察してもらう。いずれの発表も社会心理学者にとってわかりやすいかたちで発表してもらい、どのようにしたら彼らのバックグラウンドである発達・神経・生物科学と社会心理学が今後融合できるかについて言及してもらう。そしてこれらの発表を受けて、指定計論者である竹村氏から社会心理学の立場からのフィードバックを得たいと考えている。

L01 口頭発表 第1日 (8月28日)

第1日 (8月28日) 9:00~11:00 2号館4F 2404

広島大学

文化・環境

夫、または、妻は、その配偶者を所有している? or 所有していない?

一米国白人、日本人、スウェーデン人、米国黒人に

対する質問紙調査から-

 L01-02
 9:40~10:20
 ○石井 辰典
 早稲田大学

 宗教的信念の認知的起源:
 □石井 辰典
 日稲田大学

心の知覚は宗教的信念を予測するか?

Behaviours in Private and Public Spheres

L02 口頭発表

第2日(8月29日) 9:00~11:00 2号館4F 2404

政治意識

L02-01 $9:00\sim9:40$ ○三浦 麻子 関西学院大学 · 大阪大学

「その噂は本当だと思う」は本当か 小林 哲郎 香港城市大学

調査回答における信念表明に関するランダム化比較実

験

L02-02 $9:40\sim10:20$ ○小林 哲郎 香港城市大学

政治デモへの参加と社会的距離 三浦 麻子 関西学院大学・大阪大学

香港城市大学 9カ国比較オンライン実験 馬 誕寧

○唐沢 穣 名古屋大学 L02-03 $10:20 \sim 11:00$

日本人の国民・国家意識とそのイデオロギー性 塚本 早織 愛知学院大学 柳 学済 愛国心、ナショナリズム、国際主義の現在 (株)ネオキャリア LO3 口頭発表 第2日 (8月29日) 14:00~16:00 2号館4F 2404

集団・対人関係

L03-01 $14:00 \sim 14:40$

Are lone wolves more sociable than a wolf pack? Loneliness and friendship selection processes among first-year undergraduates

L03-02 $14:40 \sim 15:20$

社会的ネットワーク分析による共有リーダーシップの実 証的研究

L03-03 $15:20 \sim 16:00$

観察者の特性はどのように顔の印象評定に影響するか?

モデル比較を用いた顔の印象評定に対する性格特性と 観察行動の効果の検討 OTasuku Igarashi Nagoya University Ryuichi Tamai Nagoya University

Takuya Yoshida Gifu Shotoku Gakuen University Taro Hirashima Aichi Shukutoku University

○越智 宏朗 九州大学 池田 浩 九州大学 秋保 亮太 中京大学 山口 裕幸 九州大学

○徐 貺哲 千葉大学

川端 良子 国立国語研究所 松香 敏彦 千葉大学

自己・パーソナリティ

座長 長谷川 孝治

S11-01	9:00~9:20 LINE上での安心さがしに対する自尊心とネガティブ投稿動機の効果 ――誰が、なぜ安心さがしメッセージを送るのか――		孝治 由香里	信州大学 信州大学
S11-02	9:20~9:40 図形の動きに意図を見いだす人は著名人・ブランドのファンになりやすい エージェンシー探知傾向と人(著名人)・物(ブランド)に対するファン性の関連の検討	○伊藤	100	(株)イデアラボ
S11-03	9:40~10:00 修行体験における認知変容プロセス 一自己概念との関わりから―	○佐藤	アソカ	東北大学
S11-04	10:00~10:20 主観的幸福感の個人差を予測する神経回路	○柳澤 阿部		京都大学 京都大学
S11-05	10:20~10:40 社会的価値指向性における脳の機能的および構造的 結合の特徴 マルチモーダルMRIによる検討	○高岸 田中 松田	大貴	玉川大学 玉川大学 玉川大学
S11-06	10:40~11:00 共感と心拍減速の逆U字関係の検討	○日道 大坪		高知工科大学 神戸大学

S12 口頭発表

第1日 (8月28日) 9:00~11:00 2号館3F2301

社会的認知

座長 浅井 暢子

S12-01	9:00~9:20 カテゴリー化の基盤と内外集団成員への協力行動	○浅井 暢子	京都文教大学
S12-02	9:20~9:40 時間的距離感と想像の抽象度が未来の自己のポジティ ブさの知覚に及ぼす影響	○齋木 彩 田中 知恵	明治学院大学 明治学院大学
S12-03	9:40~10:00 ステレオタイプの流暢性が対人印象に及ぼす影響 一ジェンダーステレオタイプを用いた検討—	〇佐藤 春樹 堀田 美保 及川 昌典	同志社大学 近畿大学 同志社大学
S12-04	10:00~10:20 隠蔽する心的状態の感情価が透明性錯覚に及ぼす影響 情動を喚起する写真刺激を用いた検討	〇武田 美亜 沼崎 誠	青山学院女子短期大学 首都大学東京
S12-05	10:20~10:40 安心から信頼が醸成されるのは高流動な個人?高流動な社会? 一地域社会群データに対するマルチレベル分析一	○福島 慎太郎	東京女子大学
S12-06	10:40~11:00 空間的視点取得による身体化が他者の心的状態の推 測に及ぼす影響	〇早川 美歩 平島 太郎 五十嵐 祐	名古屋大学 愛知淑徳大学 名古屋大学

社会問題・社会病理

座長 西田 公昭

S13-01	9:00~9:20 占い師や霊能師の社会的機能の光と影(1) 占い師のコミュニケーション構造と的中感トリック検証	○西田 公昭	立正大学
S13-02	9:20~9:40 匿名型ソーシャル・メディアの使用と在日コリアンへの 偏見 縦断的調査による検討	○高 史明	神奈川大学
S13-03	9:40~10:00 ケータイ利用のライフスタイル・アプローチ I シニアのライフスタイルとICT利活用の時系列考察	○水野 一成 飽戸 弘	NTTドコモモバイル社会研究所 東京大学
S13-04	10:00~10:20 ケータイ利用のライフスタイル・アプローチ II マナー意識の違いによる類型化とライフスタイルとの関係	○吉良 文夫 飽戸 弘	(株)NTTドコモ 東京大学
S13-05	10:20~10:40 Dark Triadによるゴミのポイ捨て行動の予測	〇下司 忠大 吉野 伸哉 小塩 真司	早稲田大学・日本学術振興会 早稲田大学 早稲田大学
S13-06	10:40~11:00 若手新聞記者の報道に対する信念	○西村 隆次	筑波大学

S14 口頭発表

第1日(8月28日) 11:10~12:50

2号館4F 2402

文化 座長 浅野 良輔

 S14-01
 11:10~11:30 都市居住が人生満足度に与える影響 一日米における実験的検討—
 ○浅野 良輔 久留米大学 伊藤 健一 Nanyang Technological University 福岡大学

 S14-02
 11:30~11:50
 ○佐々木 美加 明治大学

 S14-02
 11:30 ~ 11:50
 ○佐々木 美加 明治大学

 過疎地/非過疎地の社会的態度と主観的幸福感の比
 福野 光輝 東北学院大学

シンガポール国立大学日 利能シンガポール国立大学

 \$14-04
 12:10~12:30
 ○中田 星矢
 北海道大学

 教育が累積的文化進化に与える影響
 竹澤 正哲
 北海道大学

 計算論モデルを用いたコンピュータ・シミュレーション
 **

\$14-0512:30~12:50○山崎 瑞紀東京都市大学日本版謙遜行動尺度の作成、及び信頼性・妥当性の検討

S15 口頭発表

第1日(8月28日) 11:10~12:50

2号館3F 2301

対人的相互作用1

座長 藤原 健

S15-01	11:10~11:30 シンクロニーが関係継続の意思を高めないとき 二者間会話における初対面同士と友人同士の比較	○藤原 健木村 昌紀大坊 郁夫	大阪経済大学 神戸女学院大学 北星学園大学
S15-02	11:30~11:50 軽蔑の典型的な生起状況の検討 ——生起状況の構造および嫌悪、怒りとの比較——	〇福田 哲也 蔵永 瞳	聖カタリナ大学 滋賀大学
S15-03	11:50~12:10 報復や報恩は連鎖するか 社会的地位関係の変化が報酬分配に及ぼす影響	○金内 さよ三浦 麻子唐沢 穣	名古屋大学 関西学院大学・大阪大学 名古屋大学
S15-04	12:10~12:30 日本語版 Imposing Memory Task(IMT-J)の開発(1) 心理測定学的特性の基礎的な検討	〇平島 太郎 五十嵐 祐	愛知淑徳大学 名古屋大学
S15-05	$12:30\sim12:50$ Changes of stress in the situations where we must seek help repeatedly: The moderation effects of subjective well-being and loneliness	○古橋 健悟 五十嵐 祐	名古屋大学 名古屋大学

S16 口頭発表

第1日(8月28日) 11:10~12:50

4号館2F 4203

組織・産業1

仕事における実践知と叡智の構造

会社員, 教員, 看護師に対する調査に基づく検討

座長 縄田 健吾

○縄田 健悟 福岡大学 S16-01 $11:10\sim11:30$ リーダーからメンバーへのプロアクティブ行動の波及効 九州大学 池田 浩 果 後藤 凜子 九州大学 企業組織におけるチーム・ダイナミックスの視点から 青島 未佳 産学連携機構九州 山口 裕幸 九州大学 明治学院大学 S16-02 $11:30 \sim 11:50$ ○堀 遼太郎 上司のリーダーシップ行動とその適切性の認知が部下 田中 知恵 明治学院大学 の上司評価に与える影響(2) ーアルバイト部下の視点から一 S16-03 $11:50 \sim 12:10$ ○今城 志保 リクルートマネジメントソリューションズ 働き方改革は何を目指すべきか 正木 郁太郎 東京大学 異なる結果変数に対する側面別満足度の影響の違い S16-04 $12:10\sim12:30$ ○正木 郁太郎 東京大学 職務特性と働く価値観がバーンアウト傾向に及ぼす影 今城 志保 リクルートマネジメントソリューションズ $12:30\sim12:50$ ○楠見 孝 S16-05 京都大学

S21 口頭発表

第2日(8月29日) 9:00~11:00 2号館4F 2402

感情・動機 座長 北村 英哉

S21-01	9:00~9:20 恨まれる状況の喚起と恨み忌避傾向が他者の表情検 出に及ぼす効果 一怒り、悲しみ、喜びの表情からの感情読み取り課題 を通して一	○北村 英哉 小林 麻衣 木村 はるか	東洋大学 立正大学 関西大学
S21-02	9:20~9:40 心のゆとりが精神的健康に及ぼす影響: 主観的幸福感との比較	○小林 亮太 宮谷 真人 中尾 敬	広島大学 広島大学 広島大学
S21-03	9:40~10:00 能力を高めようとする動機づけの源泉とは何か? 重要なのは自己肯定感か、マインドセットか	○竹橋 洋毅 豊沢 純子 島井 哲志	関西福祉科学大学 大阪教育大学 関西福祉科学大学
S21-04	10:00~10:20 ストレスマインドセットと動機づけ・知能観・性格観との 関連 一自己決定理論に基づくアルバイト動機づけに注目し て一	○大久保 慧悟 竹橋 洋毅 冨田 修平	ディップ(株) 関西福祉科学大学 ディップ(株)
S21-05	10:20~10:40 より大きい恩恵を考えた後の感謝 8種類の恩恵シナリオを用いた検討	〇山本 晶友 樋口 匡貴	上智大学 上智大学
S21-06	10:40~11:00 モラル・エレベーション喚起を調整する要因の文化差 一日本におけるAquino et al. (2011) の概念的追試—	○竹部 成崇 福島 慎太郎	一橋大学 東京女子大学

S22 口頭発表

第2日(8月29日) 9:00~11:00 2号館3F2301

身近な人間関係

座長 谷口 淳一

S22-01	9:00~9:20 新たな対人関係の形成に果たす関係的自己の役割 一大学新入生を対象として一	○谷口	淳一	帝塚山大学
S22-02	9:20~9:40 恋愛マキシマイザーは恋愛不幸か? 恋愛関係における追求後悔尺度の作成と分析	○越智	啓太	法政大学
S22-03	9:40~10:00 出産前のシャイネスと社会的代理人利用が出産後のサポートネットワークに及ぼす影響	相馬長沼	太志 嘉一郎 敏彦 貴美 千喜	広島国際大学 北海学園大学 広島大学 創価大学 元広島国際大学
S22-04	10:00~10:20 ストーキング・親密な関係者間暴力被害者の警察相談 での意思決定に影響する要因	○島田	貴仁	科学警察研究所
S22-05	10:20~10:40 "No" というコミュニケーションが暴力抑止に効く喜び 一非協調的志向性を通じた回避動機の充足が関係満 足に及ぼす影響—	○相馬	敏彦	広島大学
S22-06	10:40~11:00 恋愛関係崩壊後のアタッチメント・ネットワーク (2) 元恋人へのアタッチメント欲求の経時的変化	戸田	健太郎 弘二 達也	弘前大学 北海道教育大学 高知工科大学

S23 口頭発表

第2日(8月29日) 9:00~11:00 4号館2F 4203

集団 座長 井上 裕香子

S23-01	9:00~9:20 社会的地位がテストステロンの支配的行動促進効果に 与える影響 最後通牒ゲームを用いた検討	○井上 裕香子 高橋 泰城 Robert Burriss 新井 さくら 長谷川 寿一 山岸 俊男 清成 透子	玉川大学 北海道大学 Basel大学 California大学SB校 (独)大学改革支援・学位授与機構 一橋大学 青山学院大学
S23-02	9:20~9:40 外集団の存在は互恵性の期待の効果を減じるか? 野球ファンを用いた場面想定法実験	○中川 裕美 横田 晋大 中西 大輔	広島修道大学 広島修道大学 広島修道大学
S23-03	9:40~10:00 マイノリティは別のマイノリティを引き寄せるか? Social Impact Theory に基づく思考実験	○高木 英至	埼玉大学
S23-04	$10:00\sim10:20$ Ostracism for maximizing the whole benefit of the group: Psychological process of suppressing social pain associated with ostracizing	○玉井 颯一 五十嵐 祐	名古屋大学 名古屋大学
S23-05	10:20~10:40 日本語版 Social Dominance Orientation Scale ver.7作成 の試み	〇水野 君平 杉浦 仁美 三船 恒裕 中島 寿宏	北海道大学 近畿大学 高知工科大学 北海道教育大学
S23-06	10:40~11:00 カリスマ的支配理論の認知的基盤を探る 発達初期から反直感的な能力の行使は社会的優位性 と結びついているのか?	○中分 遥 孟 憲巍 橋彌 和秀 Emily Burdett Jonathan Jong Harvey Whiteho	University of Oxford · 九州大学 京都大学 · 日本学術振興会 九州大学 University of Oxford · Coventry University University of Oxford · Coventry University Ouse University of Oxford

S24 口頭発表

第2日(8月29日) 11:10~12:50

2号館4F 2402

政治意識・世論

座長 稲増 一憲

○稲増 一憲 関西学院大学 S24-01 $11:10\sim11:30$ マスメディアへの接触変数の測定に関する研究 中村 早希 関西学院大学 三浦 麻子 関西学院大学・大阪大学 多湖 淳 早稲田大学 S24-02 $11:30 \sim 11:50$ ○岡田 陽介 拓殖大学 政治家の「声」は有権者に届いているのか? 2014年衆院選首都圏立候補者の音声周波数と得票率 の分析 ○横山 智哉 S24-03 $11:50 \sim 12:10$ 立教大学 政治的会話がミニ・パブリクスに与える処置前接触効 S24-04 $12:10\sim12:30$ ○正木 誠子 慶應義塾大学 テレビのニュース報道への批判態度の規定因 第三者効果・敵対的メディア認知・テレビの道徳性の 認知との関連を中心に S24-05 $12:30 \sim 12:50$ ○横山 実紀 北海道大学 多段階市民参加による環境政策策定過程の評価と未 大沼 進 北海道大学 水鳥 翔伍 北海道大学 来志向性 札幌市環境基本計画策定事例

S25 口頭発表

第2日(8月29日) 11:10~12:50

佐々木 達矢 ウイーン大学・F-Power

2号館3F 2301

対人的相互作用2

座長 石盛 真徳

○石盛 真徳 追手門学院大学 S25-01 $11:10\sim11:30$ 藤澤 隆史 夫婦および交際中のカップルの相互作用と脳機能類似 福井大学 ―ムーン・サバイバル課題におけるパフォーマンスに ついての検討-○新井 さくら カリフォルニア大学サンタバーバラ校 S25-02 $11:30\sim11:50$ いかなる資源をもらたすパートナーが選ばれるか Michael Barlev カリフォルニア大学サンタバーバラ校 パートナー選択において投資される資源の種類に関す Leda Cosmides カリフォルニア大学サンタバーバラ校 カリフォルニア大学サンタバーバラ校 るメタ分析 John Tooby S25-03 $11:50 \sim 12:10$ ○大坪 庸介 神戸大学 集団によるコストのかかる謝罪の効果 松永 昌宏 愛知医科大学 fMRIを用いた集団謝罪に関する社会神経科学的研究 日道 俊之 高知工科大学 鈴木 孝太 愛知医科大学 柴田 英治 愛知医科大学 堀 礼子 愛知医科大学 梅村 朋弘 愛知医科大学 大平 英樹 名古屋大学 ○土田 修平 北海道大学 S25-04 $12:10\sim12:30$ 中島 彩花 強化学習モデルを用いた協力行動の個人差の検討 堀田 結孝 帝京大学 竹澤 正哲 北海道大学 S25-05 $12:30 \sim 12:50$ ○岡田 勇 創価大学 間接互恵における評判情報の参照戦略の分析 山本 仁志 立正大学 佐藤 克己 東京学芸大学・インフォスクリュー 内田 智士 倫理研究所

S26 口頭発表

第2日(8月29日) 11:10~12:50

4号館2F4203

組織・産業2

座長 木村 昌紀

S26-01 $11:10\sim11:30$

消防組織における通信指令員の円滑な職務遂行とメン

タルヘルス

○木村 昌紀 神戸女学院大学 塩谷 尚正 関西国際大学 北小屋 裕 京都橘大学 田中 秀治 国士舘大学 内海 孝三 佐世保市消防局 大西 保 泉州南広域消防本部 木村 浩 秋田市消防本部 田中 誠 豊中市消防局 谷口 慶 和歌山市消防局 手銭 俊貴 出雲市消防本部 匂坂 量 国士舘大学

S26-02 $11:30\sim11:50$

消防の通信指令のスキルと自己制御及び経験との関連

○塩谷 尚正 関西国際大学 木村 昌紀 神戸女学院大学 田中 秀治 国士舘大学 北小屋 裕 京都橘大学 内海 孝三 佐世保市消防局 大西 保 泉州南広域消防本部 木村 浩 秋田市消防局 田中 誠 豊中市消防局 谷口 慶 和歌山市消防局 手銭 俊貴 出雲市消防本部

S26-03 $11:50 \sim 12:10$

> 集団成員間の制御適合はワーク・エンゲイジメントを高 めるか?

> 個人と上司, 及び同僚の組み合わせがもたらす効果に

着目して

○後藤 凜子 九州大学 池田 浩 九州大学 縄田 健悟 福岡大学

匂坂 量

青島 未佳 産学連携機構九州

国士舘大学

山口 裕幸 九州大学

S26-04 $12:10\sim12:30$

企業風土と個人特性の相互作用

自己価値随伴性のマルチレベル分析による検討

〇中山 真孝 カーネギーメロン大学

内田 由紀子 京都大学 竹村 幸祐 滋賀大学 金子 祥恵 九州大学 伊藤 篤希 京都大学 新谷 茉奈 京都大学

526-05 $12:30 \sim 12:50$

日本人の海外職場におけるワークモチベーション変動 プロヤス

――コンサルティング専門職へのインタビュー調査を通 して-

○有吉 美恵 九州大学 九州大学 山口 裕幸

S27 口頭発表

第2日(8月29日) 14:00~16:00 2号館4F 2402

態度・信念・価値観

座長 清水 裕士

S27-01	14:00 ~14:20 多次元段階反応展開法による政治的態度の分析 累積型項目反応理論との比較	○清水 裕士 稲増 一憲	関西学院大学 関西学院大学
S27-02	14:20~14:40 Schwartzの「価値観モデル」の方法論的な検討	○真鍋 一史	青山学院大学
S27-03	14:40~15:00 省エネルギー行動への価値観およびエネルギー意識 の影響	○大塚 彩美 平野 勇二郎 鳴海 大典	横浜国立大学 国立環境研究所 横浜国立大学
S27-04	15:00~15:20 道徳基盤が道徳の拡張性に及ぼす影響の検討 自然との感情的な結びつきの調整効果に着目して	○茨木 涼馬 坂田 桐子	広島大学 広島大学
S27-05	15:20~15:40 オキシトシン受容体遺伝子多型と一般的信頼の関連 安静時脳機能的結合による検討	○仁科 国之 高岸 治人 井上-村山 美利 高橋 英彦 坂上 雅道 山岸 俊男 松田 哲也	玉川大学・日本学術振興会 玉川大学 恵 京都大学 京都大学 玉川大学 一橋大学 玉川大学
S27-06	15:40~16:00 社会的価値志向性と意思決定時の瞳孔反応の関連 順次囚人のジレンマゲームを用いた検討	○金成 慧仁科 国之寿 秋露高岸 治人	玉川大学 玉川大学 玉川大学 玉川大学

S28 口頭発表 第2日 (8月29日) 14:00~16:00 2号館3F 2301

社会的ジレンマ

座長 竹村 幸祐

S28-01	14:00 ~ 14:20 自分と他者の住居流動性はどちらが問題か? 協力規範と協力行動の関係を弱める干渉効果	○竹村 幸祐 福島 慎太郎 内田 由紀子	滋賀大学 東京女子大学 京都大学
S28-02	14:20~14:40 公共財問題における内生的な制度形成の効果	〇稲葉 美里 川村 哲也 小川 一仁	関西大学・日本学術振興会 日本経済大学 関西大学
S28-03	14:40~15:00 共通運命が集団間葛藤を超えた協力にもたらす効果 仮想世界ゲームを用いた検討	〇朱 瑶 大沼 進	北海道大学 北海道大学
S28-04	15:00~15:20 罰の予期は規範の内面化を説明できるか?: 強化学習モデルを用いた実証的検討	○本間 祥吾 竹澤 正哲	北海道大学 北海道大学
S28-05	15:20~15:40 リスク下の社会的採餌における協力的な分業の創発 認知-生理-行動実験による検討	○黒田 起吏 亀田 達也	東京大学・日本学術振興会 東京大学
S28-06	15:40~16:00 どのようなサンクション行使者が好まれるのか? 一複数の選択肢がある状況における検討—	○舘石 和香葉 高橋 伸幸 小野田 竜一 山形 詩織	北海道大学 北海道大学 大東文化大学 北海道大学

S29 口頭発表

第2日(8月29日) 14:00~16:00 4号館2F 4203

消費・リスク認知

座長 池内 裕美

S29-01	14:00~14:20 人はモノに感情移入できるか2 一アニミズム的思考と共感性が擬人化商品への感情移 入に及ぼす影響—	○池内 裕美	関西大学
S29-02	14:20~14:40 「少数派の意見」が気になる時 商品選択の対象が評価分布への好みに与える影響	○藤崎 樹本田 秀仁植田 一博	東京大学 安田女子大学 東京大学
S29-03	14:40~15:00 文化的自己観とブランド価値 解釈レベルによる調整効果の検討	○杉谷 陽子 外川 拓	上智大学 千葉商科大学
S29-04	15:00~15:20 人はなぜ買い控えをするのか(3) 福島第一原子力発電所事故による買い控え行動に関 する調査	〇中西 大輔 井川 純一 横田 晋大	広島修道大学 大分大学 広島修道大学
S29-05	15:20~15:40 他者のためのリスク決定を支える認知過程の検討 マウスラボとfMRIによる実験研究	〇上島 淳史 小川 昭利 犬飼 佳吾 亀田 達也	東京大学・日本学術振興会 順天堂大学・玉川大学・理化学研究所 明治学院大学 東京大学
S29-06	15:40~16:00 NIMBY施設の受容をめぐるマルチアクター評価モデル立地地域少数者が求める行政の手続き的公正と域外 多数者の関心	野波 寛坂本 剛大友 豊青木 俊明	関西学院大学 名古屋産業大学 甲南女子大学 名桜大学 東北大学

第1日 (8月28日) 9:30~11:00 4号館4F 4403

在席責任時間 奇数番号:9:40~10:25 偶数番号:10:05~10:50

P11-01	他者からの恨み感受性尺度作成の試み	〇佐藤 栄晃 北村 英哉	関西大学 東洋大学
P11-02	大学生の飲酒と規範の関連へのセルフコントロールの 調整効果 (2) 飲酒についての態度と価値割引に着目した検討	○後藤 崇志	滋賀県立大学
P11-03	良性・悪性妬みとシャーデンフロイデの関連について	〇相羽 将智 坂田 桐子	広島大学 広島大学
P11-04	もったいない感情の発達的変化に関する研究	○黒川 雅幸	愛知教育大学
P11-05	場面想定法による感情の3次元モデルの検証	〇佐藤 俊雄 堀毛 一也	東洋大学 東洋大学
P11-06	社会経済的地位と怒り表出のメカニズム 心理的特権意識の媒介効果の検討	〇志水 裕美 清水 裕士	関西学院大学 関西学院大学
P11-07	妬みの知覚が資源分配に及ぼす影響 一妬みを知覚する際の言語的手がかりに注目して一	○井上 裕珠	日本大学
P11-08	畏敬の念は利他的行動を促進するのか? 認知的スキーマ更新の観点から	〇高野 了太 野村 理朗	京都大学京都大学
P11-09	ダークトライアドが皮肉へのユーモア生起に及ぼす影響 逸脱の無害化がユーモアへとつながる	〇三好 理央 浦 光博	追手門学院大学 追手門学院大学
P11-10	国内旅行のモチベーションがジェネリックスキルに及ぼ す効果	○宮川 えりか 小口 孝司	立教大学 立教大学
P11-11	特性・状態向社会性尺度の作成と信頼性・妥当性の 検証	〇川本 大史 吉田 綾乃 金井 嘉宏 入戸野 宏	中部大学 東北福祉大学 東北学院大学 大阪大学
P11-12	所得格差情報が多元的公正感に及ぼす効果の検討	○川嶋 伸佳	京都文教大学
P11-13	中国の大学生における異性不安に関する要因	○崔 凌	東洋大学
P11-14	見識ある自己利益がトロッコ課題の行動選択に与える影響	○高松 礼奈	名古屋大学
	新 利己的なだけではだめでも,他者のためにもなるなら 良い?		
P11-15	映像のテロップによる面白さの変化 漫才にテロップは必要か	〇玉宮 義之 柳田 萌絵	白鴎大学 (株)クリーク・アンド・リバー社
P11-16	共同作業事態における課題表象と共感性の関係 go/no-goフランカー課題を用いた検討	○木村 ゆみ 吉崎 一人	愛知淑徳大学 愛知淑徳大学
P11-17	性と社会的スキルの影響 一性と高・大学生とのかかわりにおいて―	〇髙田 理衣 安念 保昌	中京学院大学 愛知みずほ大学

ポスター発表 P11 第1日

P11-18	熟慮-実行マインドセットが確証的な情報探索に及ぼ す影響	〇松崎 圭佑 沼崎 誠	首都大学東京 首都大学東京
P11-19	争いの被害者のパーソナリティと赦し 視点取得の効果に着目して	○福本 都橋本 剛明唐沢 かおり	東京大学 東京大学 東京大学
P11-20	競争的文脈における視点取得が対人認知に及ぼす効果 文脈から焦点を外した視点取得は他者との対立を弱めるか	〇平野 万由子 工藤 恵理子	東京女子大学 東京女子大学
P11-21	都鄙環境の認知と地域ステレオタイプの相補性	〇矢田 尚也 池上 知子	関西大学 大阪市立大学
P11-22	矛盾する2つの情報がターゲット人物の印象に与える影響 ~ターゲット人物と所属集団に関する情報が矛盾するとき~	○貴島 侑哉 笹山 郁生	宮崎市立檍北小学校 福岡教育大学
P11-23	顔の同定判断は魅力の影響を受けるか 顔に対する観察経験と魅力の効果の検証	○藏口 佳奈	追手門学院大学
P11-24	女性美の基準に与える関心・意識の影響 美と健康/外見と内面に対する態度に着目した群間比 較	○山田 雅子	埼玉女子短期大学
P11-25	不道徳な人物との下方比較によるモラルライセンシング	〇古川 善也 中島 健一郎	日本学術振興会 広島大学
P11-26	他者視点取得が仮想接触の偏見低減に及ぼす効果 一自己高揚動機に注目した検討—	〇榊間 彩加 吉澤 寛之	岐阜大学 岐阜大学
P11-27	BIAS map に基づく「障がい者」表記の影響の検討	〇田戸岡 好香 大井 美波 石井 国雄	高崎経済大学 長野県短期大学 清泉女学院大学
P11-28	犯罪者の子どもと連合的スティグマ ――遺伝的本質主義の観点から――	○ターン 有加里 村田 光二 唐沢 かおり	ジェシカ 東京大学 成城大学 東京大学
P11-29	俗流若者論を自己正当化と社会に対する評価の投影と して理解する 存在脅威管理理論からの検討	○脇本 竜太郎	明治大学
P11-30	精神疾患者とネガティブなステレオタイプとの連合に仮想接触が及ぼす効果 一代替思考としての仮想接触の役割に注目した検討一	〇堀川 佑惟 岡 隆	日本大学 日本大学
P11-31	潜在的ジェンダー職業ステレオタイプと自己評価の関 係	○小林 知博	神戸女学院大学
P11-32	内在的公正推論における世代間比較 日米における傾向の把握	〇村山 綾 三浦 麻子	近畿大学 関西学院大学・大阪大学
P11-33	大学での学業遂行と適応を支える心理的特性(11) 心理的耐久性 (Durability) が大学生活充実感に及ぼ す影響	〇畑中 美穂 川上 正浩 小城 英子	名城大学 大阪樟蔭女子大学 聖心女子大学

ポスター発表 P11 第1日

P11-34	道徳的動機が非行少年に対する態度に与える影響 態度の二面性に着目して	○藤原 佑 稲垣 兔		科学警察研究所 鹿児島大学
P11-35	身体障がい者に対する支援的態度の阻害要因の検討 一社会的支配志向性と優越性脅威の影響—	矢田 尚	千裕 尚也 n子	大阪市立大学 関西大学 大阪市立大学
P11-36	不思議現象に対する態度と協調的幸福感との関連 (1) 不思議現象に対する態度 (57)	○川上 正 小城 英 坂田 浩	英子	大阪樟蔭女子大学 聖心女子大学 大阪樟蔭女子大学
P11-37	不思議現象に対する態度と協調的幸福感との関連 (2) 不思議現象に対する態度 (58)	○小城 英 坂田 浩 川上 正	告之	聖心女子大学 大阪樟蔭女子大学 大阪樟蔭女子大学
P11-38	Dark Triad の対人関係についての検討	〇田崎 優中島 傾	~ —	広島大学 広島大学
P11-39	社会性の有無におけるセルフ・モニタリングと世間への 関わり方の関連 一社会規範の探索的研究(20)一	○岩淵 千 小牧 - 森上 幸	一裕	川崎医療福祉大学 大阪国際大学 大阪国際大学
P11-40	高信頼者の社会関係はオープンではない? 全国ネットワーク調査のトライアド・センサス	○石黒 格	各	日本女子大学

在席責任時間 奇数番号:11:30~12:15 偶数番号:11:55~12:40

P12-01	物語接触が関連行動の生起に及ぼす影響 Fantasy Realization Theoryに基づく同一視の抑制的影響の検討	○小森 めぐみ	淑徳大学
P12-02	私たちは説得されているのか 事前の態度と唱導方向への説得について	○伊藤 君男	東海学園大学
P12-03	賛否の異なる2者から説得される状況での態度変容プロセスの検証	〇中村 早希 三浦 麻子	関西学院大学 関西学院大学・大阪大学
P12-04	ゴールコンフリクトが自己の態度認知に及ぼす影響	○浅野 龍平野村 理朗浦 光博	追手門学院大学 京都大学 追手門学院大学
P12-05	解釈レベル理論に基づくHIV 検査受検動機促進要因の検討	〇大澤 裕美佳 池上 知子	大阪市立大学 大阪市立大学
P12-06	リスク認知とポジティブ志向,楽観性,幸福感との関連 について	○橋本 京子	滋賀大学
P12-07	親密な他者との関係性とリスクテイク傾向	○阿形 亜子	奈良女子大学
P12-08	Twitterのプライバシー設定利用動機と自己開示傾向との関連 「プライバシー・パラドックス」は存在するか	〇澤田 昂大 五十嵐 祐	名古屋大学 名古屋大学
P12-09	主観的知識量が情報探索行動と電磁波のリスク認知に及ぼす影響 (3) 一検索容易性での主観的知識量操作による実験的検 討一	○高木 彩 小森 めぐみ 今野 将	千葉工業大学 淑徳大学 千葉工業大学
P12-10	欺瞞的コミュニケーションにおける動機と上下関係の影響	○山本 恭子	神戸学院大学
P12-11	オンライン・メディアでの発信行動を導く要因 「利用と満足」研究モデルからの検討	○大坪 寛子	慶應義塾大学
P12-12	大学生を対象とした日常生活における他者操作方略尺度の作成と他の変数との関連 (2) 一ダーク・トライアドおよび対人ストレッサーとの関連性についてのパス解析—	〇木川 智美 今城 周造	昭和女子大学 昭和女子大学
P12-13	社会的排斥が曖昧表情の弁別に及ぼす影響	○松尾 和弥 大浦 真一 島 義弘 稲垣 勉 福井 義一	甲南大学・日本学術振興会 甲南大学 鹿児島大学 鹿児島大学 甲南大学
P12-14	表情模倣の可視化システムを用いた共感性向上トレー ニング	○谷田 林士三村 安純山屋 奏美	大正大学 (株)インターワークス (株)ジャパンビバレッジ東京

ポスター発表 P12 第1日

P12-15	テキストベースのコミュニケーションにおける感情伝達の 確信度と正確さの関係	○加藤 加藤 小澤	尚吾	相模女子大学・教育テスト研究センター 東京女子大学・教育テスト研究センター 明星大学
P12-16	LINEグループにおいて返信を待つ間にネガティブ感情を生じる人の比率: グループの種類及びLINE依存度の影響	○加藤 小澤 加藤	康幸	東京女子大学 明星大学 相模女子大学
P12-17	オンライン上のコミュニケーション行動における理想と現 実の相違	〇石川 平田		上越教育大学 白鴎大学
P12-18	LINE 既読スルー態度の違いによるLINE 利用目的の差 異	○岡本	香	東京福祉大学
P12-19	対人不安傾向と賞賛獲得欲求がSNSでの対人行動に 及ぼす影響 一対面状況との比較による検討—	○小島	弥生	埼玉学園大学
P12-20	鉄道異常時における乗客救済資源の分配に関する乗客心理(1) 一平等性と必要性の原理に着目して一	○山内鈴木斎藤菊地	大輔 綾乃	(公財) 鉄道総合技術研究所 (公財) 鉄道総合技術研究所 (公財) 鉄道総合技術研究所 (公財) 鉄道総合技術研究所
P12-21	援助規範意識と攻撃性、公正世界信念及び援助行動 との関連	○山本	陽一	筑波大学
P12-22	援助要請行動に伴う利益とコスト 要請スタイルによる認識の差	○玉水 浦 光		追手門学院大学 追手門学院大学
P12-23	連続したストレス場面における共感とストレスの双方向性 シナリオ課題を用いた検討	王 岩城 大坂 小島	≦基 帆乃花 陽子	京都大学·日本学術振興会 京都大学 京都大学 京都大学 京都大学 京都大学
P12-24	寄付を妨げる要因に関する探索的検討	○中島	誠	名古屋学院大学
P12-25	授産製品購入動機と倫理的消費の関係	○岩井	阿礼	淑徳大学
P12-26	シャイネスが電話応対行動に与える影響 〜シャイネス尺度と電話応対力の関連について〜	○小幡	直弘	北星学園大学
P12-27	感謝表出スキル・トレーニングにおける学習内容の質 的分析	○酒井 相川		筑波大学 筑波大学
P12-28	女子大学生におけるチームワーク能力トレーニングの実践 対人関係認知および協同作業の認識の変化	○渡部	麻美	東洋英和女学院大学
P12-29	対人スキルは対人場面における批判的思考の使用判断に関わるか 横断的な質問紙調査による探索的検討	○嘉瀬	貴祥	立教大学
P12-30	海外進出企業従業員におけるソーシャルスキルのストレス緩衝効果 中国人従業員を対象とした男女別検討	○田中	健吾	大阪経済大学

ポスター発表 P12 第1日

P12-31	親密なパートナーへの暴力 (IPV) 尺度の作成と妥当性の検証 (3) ビッグファイブ, 共感性, アタッチメント, セルフコントロールとの関連	○喜入 暁	東京大学
P12-32	家族と男女の進化心理学を追試する(2) Hasleton & Buss (2000), Laham et al. (2005), Healey & Ellis (2007)	○平石 界孫 徳賦高橋 茉初藤崎 千佳	慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学
P12-33	大学生の友人関係は変化したのか? 2004年と2017年の質問紙調査による比較	○渡邉 舞 佐藤 祐基 王 怡	豊岡短期大学 北星学園大学 小田原短期大学
P12-34	母親コミュニティの帰属心形成プロセスに関する探索的分析 一定性調査を通じた仮説構築—	○大戸 朋子塚常 健太新井田 統	KDDI総合研究所 KDDI総合研究所 KDDI総合研究所
P12-35	大学生が認知する両親との信頼関係・心理的分離が 大学適応に及ぼす影響	〇山上 翔平 馬場 天信 金政 祐司	追手門学院大学 追手門学院大学 追手門学院大学
P12-36	愛着不安とDTDDが恋愛関係での間接的暴力加害に 及ぼす影響	〇金政 祐司 荒井 崇史	追手門学院大学 東北大学
P12-37	同性他者の意見にもとづく異性の魅力評価 ターゲットの身体的魅力による調整効果の検討	○天野 陽一	首都大学東京
P12-38	共同志向性が個人のwell-beingに及ぼす影響 配偶者への恩恵提供に対する後悔に注目して	○宮崎 弦太	東京女子大学
P12-39	大学生の友人関係における消極的維持(8) 一対人ストレスコーピングとの関連一	〇安藤 史高 高木 邦子	岐阜聖徳学園大学 静岡文化芸術大学
P12-40	受容手がかりに対する注意配分と回復に関する検討 一親密性回避の高い個人における回復—	○伊﨑 翼 小川 景子	広島大学 広島大学

在席責任時間 奇数番号:16:30~17:15 偶数番号:16:55~17:40

P13-01	加害者による道徳的主張が第三者評価に及ぼす影響	○山縣 芽生	大阪大学
P13-02	暴力への潜在的態度が暴力行為に及ぼす影響	〇荒井 崇史 戸高 美佳 金政 祐司	東北大学 追手門学院大学 追手門学院大学
P13-03	アルギニンヴァソプレシンによる先制攻撃行動の促進	○河澤 京美保 村大 茂邊 水田 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	東京大学 麻布大学 早稲田大学 麻布大学 早稲田大学 麻布大学 東京大学
P13-04	関係懸念の何がサポート要請の日米差を説明するのか	○橋本 剛	静岡大学
P13-05	社会的排斥と時間選好 (3) 期限有報酬課題への反応の検討	〇金子 迪大 尾崎 由佳	東洋大学 東洋大学
P13-06	アクセサリー着装による気分の変容と他者への伝達	○遠藤 健治	青山学院大学
P13-07	幼児期から青年期における被服行動の経年変化 一幼児期における被服行動の高低に分けた2群の比 較一	〇乾 眞理子 森下 正修	華頂短期大学 京都府立大学
P13-08	女子大生の友人グループ間の序列化認知と大学生活 への適応との関係	○垂澤 由美子	甲南女子大学
P13-09	心理的安全風土は多元的無知の影響を低減するか? 男性の育児休業問題の文脈における検討	○宮島 健 山口 裕幸	西南学院大学 九州大学
P13-10	多元的無知の維持メカニズム 逸脱者罰と関係流動性に着目して	〇岩谷 舟真村本 由紀子小泉 喜之介芹澤 鮎子栗本 真奈	東京大学・日本学術振興会 東京大学 東京大学 東京大学 東京大学
P13-11	オーセンティック・リーダーシップ尺度日本語版 (ALI-J) の作成	○劉 婷 坂田 桐子	広島大学 広島大学
P13-12	リーダーとフォロワーの関係が公正感,およびリーダー評価に与える影響 所属期間が短期のフォロワーと長期のフォロワーの比較	〇森下 雄輔 谷口 淳一	神戸学院大学 帝塚山大学
P13-13	成員の迷惑行為への組織対応が他の成員におよぼす 影響 (3)	○礒部 智加衣	千葉大学
P13-14	集団主義・個人主義が集団規範継承動機に及ぼす影響(1) 日英の比較調査から	○尾関 美喜 Giovanni Travaglino	東京国際大学 University of Kent
P13-15	集団脱同一視が下位集団に対する同情に及ぼす影響 序列構造の変化知覚による差異	〇池上 知子 安達 菜穂子	大阪市立大学 大阪市立大学

ポスター発表 P13 第1日

	HI Was a little state of the		1 1 N
P13-16	恩送りの規定要因: 公正世界信念とUpstream互恵性の関連	○山本 仁志 梅谷 凌平	立正大学立正大学
P13-17	グループワークと社会的ジレンマ(1) 一公共財ゲーム指標に関して一	〇安念 保昌 高橋 徹	愛知みずほ大学 愛知みずほ大学
P13-18	グループワークと社会的ジレンマ (2) 一囚人のジレンマゲーム指標に関して一	○高橋 徹安念 保昌	愛知みずほ大学 愛知みずほ大学
P13-19	能力の多様性と集団内協力 エージェントベースシミュレーションによる検討	○仲間 大輔 渡部 幹	(株)リクルートマネジメントソリューションズ・東京大学 モナシュ大学
P13-20	入れ子型の社会的ジレンマにおける協力行動の推移と 罰の効果	○北梶 陽子 稲葉 美里	広島大学 関西大学・日本学術振興会
P13-21	不確実性が協力・利他行動に与える影響 プログレスレポート	○後藤 晶	多摩大学・明治大学
P13-22	ストレス状況下におけるマインドセットの変容の観点から みた過剰適応者の人並みを志向するメカニズムの検討	○濵崎 洋嗣 塩崎 麻里子	近畿大学 近畿大学
P13-23	組織運営におけるリーダーシップ機能に帰属複雑性や ストレスコーピングが及ぼす影響	○武藤 麻美	大阪経済法科大学
P13-24	新しい同調行動尺度の提案と検証: 規範的影響と情報的影響以外の視点から	○ケイン 聡一岡田 涼中島 健一郎	広島大学 香川大学 広島大学
P13-25	共有リーダーシップの効果はダイバーシティに左右されるか 性別ダイバーシティの調整効果に関する実験的検討	○秋保 亮太 越智 宏朗 山口 裕幸 池田 浩	中京大学 九州大学 九州大学 九州大学
P13-26	社会的状況下の意思決定における規則の影響に関す る検討	○井出野 尚高橋 英彦竹村 和久	徳山大学 京都大学 早稲田大学
P13-27	勢力と地位が非倫理的行動に及ぼす影響 一勢力と地位の交互作用の検討—	○西村 悠人 坂田 桐子	広島大学 広島大学
P13-28	就労者の社会適応力が感情調節方略に及ぼす影響	○藤本 学 古賀 弥生	立命館大学 九州産業大学
P13-29	緊急事態に対応する組織 組織事故研究から見た福島第一原発事故	○小久保 みどり	立命館大学
P13-30	車掌の案内放送に対する旅客からのポジティブフィード バック (1) 一お褒めの言葉を獲得しやすい案内放送と車掌の特 徴一	○菊地 史倫 山内 香奈	(公財) 鉄道総合技術研究所 (公財) 鉄道総合技術研究所
P13-31	協働関係における行為者の役割と社会的ネットワークの 近接性 一中国の映画産業を対象とした検討—	○陳 佳玉 五十嵐 祐	名古屋大学 名古屋大学
P13-32	内定獲得者からの情報が受け手の妬み感情や努力意 識の生起に及ぼす影響	○辻川 典文	神戸親和女子大学

ポスター発表 P13 第1日

P13-33	稼得意識尺度の作成 一職業キャリア・レディネスと目標指向性との関連―	〇松並 知子 上野 淳子	武庫川女子大学 四天王寺大学
P13-34	若年就労者の職場適応を規定する在学中の要因 (3) 一就職活動中のストレス,自己効力感,役割占有感が 就職前の不安に及ぼす影響—	○風間 文明 山下 倫実	十文字学園女子大学 十文字学園女子大学
P13-35	炎上加担者はどのような人物か 「広めること」に着目して	○森芳 竜太 白岩 祐子 唐沢 かおり	東京大学 東京大学 東京大学
P13-36	パーソナリティ推定に基づくTwitter炎上関与者の分析	○小川 祐樹高 史明鳥海 不二夫	立命館大学 神奈川大学 東京大学
P13-37	公的自己意識とフォロワー数が Twitter の投稿内容に及ぼす影響	○栗林 克匡	北星学園大学
P13-38	SNSの積極的対人利用と主観的幸福感,友人関係満足感との関連 性別と年代を要因とした検討	○西村 洋一	北陸学院大学
P13-39	集団意思決定のゲーム構造がLINEの返信行動に及ぼす影響	○本田 志穂小宮 あすか中西 大輔小杉 考司	広島大学 広島大学 広島修道大学 専修大学
P13-40	スマホゲームへの関与度とゲーム内行動の関係について 高スマホゲーマーはゲームの中では社交的か	○山下 玲子	東京経済大学

第2日 (8月29日) 9:30~11:00 4号館4F 4403

在席責任時間 奇数番号:9:40~10:25 偶数番号:10:05~10:50

P21-01	セルフコンパッションと目標の挫折経験への対処の関連 性	○宮川 裕基 谷口 淳一 新谷 優	帝塚山大学 帝塚山大学 法政大学
P21-02	潜在的自尊心を測定する尺度間の相関関係の検討	○澤海 崇文稲垣 勉相川 充	流通経済大学・教育テスト研究センター(CRET) 鹿児島大学・CRET 筑波大学・CRET
P21-03	恋愛強迫観念の性差	○山岡 重行	聖徳大学
P21-04	日本語版 MW-D および MW-S の作成と信頼性・妥当性の検討	〇山岡 明奈 湯川 進太郎	筑波大学・日本学術振興会 筑波大学
P21-05	「フォト・ベースド・コミュニケーション」の心理・教育 的効果 自己表現を通じた肯定感の回復に向けて	○林 幸史 青野 明子 相葉 幸子	大阪国際大学 大阪国際大学 フォトスタジオ soramark
P21-06	自尊心IATにおける刺激語がIAT効果に与える影響 ジェンダー・ステレオタイプ関連語を用いた検討	〇中井 彩香 森川 健太 沼崎 誠	首都大学東京 首都大学東京 首都大学東京
P21-07	恋人の愛着機能は幼少期の愛着を補償するか 青年期の自己受容への影響	○外尾 安由子 池上 知子	大阪市立大学 大阪市立大学
P21-08	サポーティブな他者の想起は「やる気」を高めるか? ソーシャル・サポートと自我枯渇状況下における課題 のパフォーマンス	○埴田 健司 蒲谷 瑞季	東京未来大学 (株)SNG
P21-09	shift-and-persist strategies は人々の精神的健康を促すのか	〇李 受珉 戸谷 彰宏 中島 健一郎	広島大学 広島大学 広島大学
P21-10	出産前後における抑うつ変化の促進要因としての完全 主義 潜在変化モデルによる検討	○古谷 嘉一郎 相馬 敏彦 長沼 貴美 西村 太志	北海学園大学 広島大学 創価大学 広島国際大学
P21-11	気分状態が援助行動意図における合意性推定に及ぼ す影響	○下田 俊介	東洋大学
P21-12	孤独感と身体的温かさの選好の関連についての再検討	○工藤 恵理子	東京女子大学
P21-13	説明経験が説明対象の実在性認知に与える影響2 菅・宮本・太幡(2015)の再検証	○菅 さやか宮本 聡介太幡 直也	慶應義塾大学 明治学院大学 愛知学院大学
P21-14	くすぐったいなら離れよう、でも痒いなら近づこう	〇岡村 靖人 浦 光博	追手門学院大学・日本学術振興会 追手門学院大学
P21-15	偶然に存在する数値の係留効果と認知欲求による調整 Critcher & Gilovich (2008, 研究2) の直接的追試	○藤島 喜嗣 渡邊 寛 平石 界 三浦 麻子	昭和女子大学 筑波大学 慶應義塾大学 関西学院大学

ポスター発表 P21 第2日

P21-16	被視点取得の知覚、感情や思考の伝達および被視点 取得欲求が対人認知に及ぼす影響	〇鈴木 雄大 田中 知恵	日本大学 明治学院大学
P21-17	社会的排斥による単純接触効果の抑制プロセスの検討	○川上 直秋 金谷 英俊 西崎 友規子 永井 聖剛	島根大学 立命館大学 京都工芸繊維大学 立命館大学
P21-18	SNS 利用におけるリスク認知の第三者効果とその関連 要因の検討	○山本 真菜宮下 達哉堀川 佑惟木村 敦岡 隆	大妻女子大学 日本大学 日本大学 日本大学 日本大学
P21-19	大学生の授業参加意欲と教員との心理的距離との関連 解釈レベルを用いた検討	〇寺田 未来 金森 啓介	大阪電気通信大学 大手前大学
P21-20	自由意志信念が量刑判断に及ぼす影響 顕在的動機との関連に着目して	○笠原 伊織 唐沢 かおり	東京大学 東京大学
P21-21	選択の主体とサンプルサイズが全体の推定に与える影響	○土屋 耕治	南山大学
P21-22	弱い紐帯から得た「幸運」とは	○村上 幸史	神戸山手大学
P21-23	送り手の集団成員性が受け手の感情共有に及ぼす影響	○田中 知恵	明治学院大学
P21-24	赤の服装が女性に対する性的魅力と意図の推測に及 ぼす影響	〇石井 国雄 田戸岡 好香	清泉女学院大学 高崎経済大学
P21-25	評判が短期配偶志向に与える影響: 社会人を対象とした検討	〇新井田 恵美 堀毛 一也	東洋大学 東洋大学
P21-26	配偶者獲得動機の顕現化は社会的行動や判断に影響を及ぼさないのか? 一配偶形態・個人差の調整効果を含めた検討一	○沼崎 誠 天野 陽一 松崎 圭佑 中井 彩香	首都大学東京 首都大学東京 首都大学東京 首都大学東京
P21-27	テロ脅威報道接触後の外集団成員排斥にワーキングメ モリキャパシティが及ぼす影響	○吉田 綾乃	東北福祉大学
P21-28	連続して増減する価格情報と予測価格	○野田 理世	金城学院大学
P21-29	宗教プライミングによる偏見および向社会性への影響 Clobert, Saroglou, & Hwang (2015) の追試的検討	〇樋口 匡貴 宮武 沙苗	上智大学 上智大学
P21-30	家事育児と仕事の目標 一特性レベルからの検討―	○高林 久美子	東京女子大学
P21-31	客体的自覚はズル行動を抑制するか? 鏡と声が日本人に与える効果の比較	〇成田 明日香 石井 敬子	神戸大学 名古屋大学
P21-32	日本人大学生のセルフ・アイデンティティ	○外山 みどり	学習院大学

ポスター発表 P21 第2日

P21-34	クリティカルシンキング志向性に対する性格特性および クリティカルシンカーに対するパーソナリティイメージの 影響	〇矢澤 順根 作田 由衣子 中島 健一郎	広島大学 実践女子大学 広島大学
P21-35	毒をもって毒を制す 「ダークな」人たちがリーダーに選ばれる時	〇増井 啓太 浦 光博	追手門学院大学 追手門学院大学
P21-36	社交不安に影響を与える要因の検討 対人的欲求と評価への恐れから	○吉澤 英里	環太平洋大学
P21-37	ユーモアコーピング尺度(HCQ)の作成と信頼性・妥当性の検討	○本郷 亜維子	放送大学
P21-38	文化的自己観は伊達マスク・伊達サングラスの着用を 予測するか	○原田 知佳	名城大学
P21-39	存在論的恐怖に対する対処方略の相対的用いられや すさ 一日本の中年期の人々に関する検討―	○戸谷 彰宏 中島 健一郎	広島大学 広島大学
P21-40	「婚活」 意欲を高める心理的要因について 婚活への考え方と婚活意欲についての関連	○太田 彩子	筑波大学

第2日 (8月29日) 11:20~12:50 4号館4F 4403

在席責任時間 奇数番号:11:30~12:15 偶数番号:11:55~12:40

P22-01	ネット利用行動と外国人イメージ	○佐久間 勲 日吉 昭彦	文教大学 文教大学
P22-02	メディアの中の他者の意見	〇北川 茉里奈 稲増 一憲	関西学院大学 関西学院大学
P22-03	買物意識尺度の作成(1) Web調査における2次元モデルの検討	○大久保 暢俊 山田 一成 鷹阪 龍太	東洋大学 東洋大学 東洋大学
P22-04	買物意識尺度の作成 (2): Web調査における再検査信頼性の検討	〇山田 一成 大久保 暢俊 鷹阪 龍太	東洋大学 東洋大学 東洋大学
P22-05	シニアの購買意欲の影響要因について 経済的要因と心理的要因の関連	○新井 範子	上智大学
P22-06	倫理的消費の経験と態度の関連性	○泉水 清志	育英短期大学
P22-07	How an anthropomorphic product affects self-control when making purchase decision Based the study of ERP	○Qiulu Shou Xiaoyi Wang	Tamagawa University Zhejiang University
P22-08	主観的損失感による購買関連現象の解明 購買延期と低価格ブランドへの遷移及び節約行動の特 徴	〇若山 大樹	駒澤大学
P22-09	制御資源の枯渇による衝動買いへの影響とその後の制御行動: 衝動買いは制御資源の回復に繋がるか?	○小関 優花 前田 洋光	京都橘大学京都橘大学
P22-10	質問紙への回答における文脈効果のメカニズム 一プライミングの影響の抑制による印象操作検出の試 み一	○木村 邦博 上原 俊介	東北大学 鈴鹿医療科学大学
P22-11	データを毀損するのは調査モニタか、インターフェースか? 一調査モニタに対するWeb調査と郵送調査の比較一	○高橋 伸彰 成田 健一	佛教大学 関西学院大学
P22-12	美容・理容室に対するネガティブ感情 一美容・理容室を嫌だと思う理由の因子分析—	〇岸本 慎司 松下 戦具	大阪樟蔭女子大学 大阪樟蔭女子大学
P22-13	観光旅行者のリピート行動に関する研究(1) どんな人が、なにを感じ、同じ場所を訪ねるのか	○岡本 卓也	信州大学
P22-14	公共広告の描く世界 (2) 登場人物とCMコンセプトの特徴	○山本 明	中部大学
P22-15	子ども向け広告手法に対する母親の態度調査 一日米英の比較—	○藤井 達也	武蔵大学
P22-16	モデルの表情と性別が衣服の好ましさに与える影響 一日本人女性を評定者とした検討—	○高橋 望	琉球大学

ポスター発表 P22 第2日

P22-17	2017年衆議院選挙におけるニュース番組の事例的研究 着目された女性候補者たち	○石山 玲子	成城大学
P22-18	ルーツ観光が移民子孫のアイデンティティに及ぼす影響 一沖縄系移民の第三・第四世代の語りを通して一	○前村 奈央佳 加藤 潤三	神戸市外国語大学 琉球大学
P22-19	日本人の海外留学と文化的自己観の関連	○高比良 桃子 小宮 あすか	広島大学 広島大学
P22-20	住居流動性が平等分配規範に及ぼす影響 仮想場面法を用いた検討	○小宮 あすか 大石 繁宏 Matt Motyl	広島大学 University of Virginia University of Illinois-Chicago
P22-21	The Effects of Essentialist Beliefs on Pro-Social Attitudes A Prediction from Behavioral Ecology	○塚本 早織 Oliver Sng	愛知学院大学 University of Michigan
P22-22	死の顕現性が絵画評価に与える効果の検討	○白石 浩喜 平石 界	東京大学 慶應義塾大学
P22-23	非言語行動による社会的地位の伝達における文化差	○伊藤 篤希 Matthias Gobel 内田 由紀子	京都大学 Brunel University 京都大学
P22-24	居住地流動性が金銭的消費による幸福感に及ぼす影響	○大薗 博記 松永 奈々	鹿児島大学 九州大学
P22-25	面子維持尺度の再検討 日中大学生を対象に	○林 萍萍 米谷 淳	神戸大学 神戸大学
P22-26	規範の厳格さと教室秩序の関連 —PISA2015年調査・社会調査データの二次分析による検討—	○河村 悠太 楠見 孝	京都大学·日本学術振興会 京都大学
P22-27	日本文化の個人主義化 家族構造の経時的変化, 1947-2015	○荻原 祐二	東京理科大学
P22-28	出る杭が打たれる社会の人々は人前で褒められたくな い	○張 鳳芝 結城 雅樹	北海道大学 北海道大学
P22-29	妖怪の生起メカニズムと社会的役割の検討(1) 他者による承認が非科学的事象遭遇時の感情喚起に 与える効果	○高橋 綾子滝口 雄太桐生 正幸	東洋大学 東洋大学 東洋大学
P22-30	親切行動を行う意欲がポジティブ感情に与える影響コミュニティ倫理の調整効果に着目して	〇 Claudia Gherghel 橋本 剛 Dorin Nastas	名古屋大学 静岡大学 クザ大学
P22-31	肯定的感情に対する協調的幸福感と県の社会構造的 要因の効果	〇一言 英文 Thomas Talhelm	福岡大学 University of Chicago
P22-32	発表取消		
P22-33	日中大学生の学習動機付けと大学適応感が不登校傾向に及ぼす影響 一自己制御能力と拒絶反応性の検討から—	○羅 竹 堀川 佑惟 許 燕 黎 志军 岡 隆	日本大学 日本大学 北京師範大学 湖南農業大学 日本大学

ポスター発表 P22 第2日

P22-34	曖昧さへの耐性の観点からみた異文化間能力とは? 認知的完結欲求と文化的知性尺度を用いた検討	〇中尾 元 内田 由紀子	京都大学 京都大学
P22-35	中国文化を反映した社会的スキル・トレーニングは日本人大学生の行動を変えるのか? 一中国人観察者によるトレーニング効果の客観的検証—	〇毛 新華 木村 昌紀	神戸学院大学神戸女学院大学
P22-36	金融機関における特殊詐欺対策に関する心理学的検 討(3) 現状対策に対する利用者の意見分析	○木村 真利子 西田 公昭	立正大学立正大学
P22-37	大学生のアルバイト就労と疲労状態との週内変動 一2週間の短期縦断調査による予備的検討—	○髙本 真寛	横浜国立大学
P22-38	日本の少子高齢化と人口密度 都道府県人口密度と生活史戦略の相関分析	○松田 昌史	NTTコミュニケーション科学基礎研究所
P22-39	スポーツ庁のガイドラインと運動部活動の現場の比較	○安部 健太	学習院大学

第2日 (8月29日) 13:10~14:40 4号館4F 4403

在席責任時間 奇数番号:13:20~14:05 偶数番号:13:45~14:30

P23-01	ウェル・ビーイング活性化に関するweb介入の試み 一(1)介入内容の選択に関する調査結果—	○堀毛 一也 堀毛 裕子	東洋大学 東北学院大学
P23-02	介入によるストレスマインドセットの変化と主観的健康	○伊藤 晃碧	立正大学
P23-03	日本の若者における喫煙行動の男女差 2016年JYPAD調査の結果	○三好 美浩	岐阜大学
P23-04	「男と女はこんなに違う!」を受け入れるのは誰か(1)女子大学生の両面価値的性差別態度とジェンダー自尊心に着目して	○倉矢 匠	東洋大学
P23-05	夫にとっての夫婦関係満足度 男性役割態度と夫・父親役割要求による検討	○渡邊 寛	筑波大学・日本学術振興会
P23-06	好意的性差別は女性の昇進意欲を阻害するか 一状態自尊心の役割に注目して一	○坂田 桐子 唐 晨	広島大学 (株)かんぽ生命保険
P23-07	女性に対する差別的態度を検討する クラスター分析による分類	○森永 康子 福留 広大 坂田 桐子 北梶 陽子 大池 真知子	広島大学 広島大学 広島大学 広島大学 広島大学
P23-08	男性による性犯罪被害女性への非難についての検討 不安定な男性性とレイプ神話	○漆谷 紗耶 森永 康子	広島大学 広島大学
P23-09	高齢者になった自己を想像することの心理的影響	○竹内 真純 片桐 恵子	神戸大学・日本学術振興会 神戸大学
P23-10	介護ロボットの生物らしさの知覚が利用意図に与える影響	○谷辺 哲史 唐沢 かおり	東京大学・日本学術振興会 東京大学
P23-11	反社会的行動の行動決定心的過程の因子構造に関する検討 一小中学生対象の大規模サンプルデータを用いた検 討一	○吉澤 寛之 吉田 琢哉 浅野 良輔 玉井 颯一 吉田 俊和	岐阜大学 岐阜聖徳学園大学 久留米大学 名古屋大学 岐阜聖徳学園大学
P23-12	プライミング刺激が道徳不活性化と攻撃性に及ぼす影響	〇杉田 明日香 有馬 淑子	追手門学院大学 京都学園大学
P23-13	非行少年における共感性と攻撃性による粗暴行為の予 測	〇山脇 望美 河野 荘子	名古屋大学 名古屋大学
P23-14	中国における性犯罪に関する一研究	○田 楊滝口 雄太桐生 正幸	東洋大学 東洋大学 東洋大学
P23-15	批判的思考とメディア接触が治療的な司法への支持に 与える効果	〇松木 祐馬 向井 智哉	早稲田大学 早稲田大学
P23-16	裁判員裁判の心証に影響する因子について 一個人の信念・意識が量刑判断に及ぼす影響—	○北折 充隆	金城学院大学

ポスター発表 P23 第2日

P23-33

専攻学問に対する価値と授業外学習時間の関連

P23-17 発表取消 高齢女性のナラティヴにみるレジリエンス要因 ○高井 範子 大阪行岡医療大学 P23-18 P23-19 接骨院の先生のイメージ ○橋本 泰央 帝京短期大学 · 早稲田大学 SD法による柔道整復師職業イメージの検討 ○片桐 恵子 神戸大学 P23-20 ゴミ分別行動に関連する要因の検討 田畑 智博 神戸大学 P23-21 不用衣類の寄付行動にギフトエイド制度の還付率が及 ○前田 洋枝 南山大学 ぼす影響 P23-22 若者の自然観と環境問題 ○川端 美樹 目白大学 ―インタビュー調査による予備的考察― ○西道 実 P23-23 日常的防災教育プログラムの開発に関する研究(1) 奈良大学 学校教育で育成する力と災害自己効力感 P23-24 沖縄人のモーダルパーソナリティの経年変化 ○加藤 潤三 琉球大学 街歩き謎解きゲームの心理的効果 ○阿部 晋吾 梅花女子大学 P23-25 気分および地域イメージの変化と、地域ロイヤルティへ パソナ・パナソニックビジネスサービス(株) 森 一誠 の影響 子どもを育む学校・家庭・地域間連携に関する研 ○吉田 琢哉 岐阜聖徳学園大学 P23-26 吉澤 寛之 岐阜大学 究 (3) 浅野 良輔 一保護者・地域住民・教師のチームワークが子どもの 久留米大学 玉井 颯一 学級適応感に及ぼす影響-名古屋大学 岐阜聖徳学園大学 吉田 俊和 P23-27 社会変革へのコミットメントに対する地域活動推進スキ ○髙橋 尚也 立正大学 P23-28 逆説的効果信念が思考抑制と反すうの関係に与える調 ○服部 陽介 京都学園大学 整効果 家族樹形図療法における経年による認識の変化 ○高山 智 青山学芸心理 P23-29 青山学芸心理 福住 幸代 P23-30 先延ばしの際に生じる意識は課題成績に影響を及ぼす ○高田 治樹 目白大学 か? (1) 小浜 駿 宇都宮共和大学 先延ばし意識特性と行動実態の関連に関する実践的 先延ばしの際に生じる意識は課題成績に影響を及ぼす ○小浜 駿 宇都宮共和大学 P23-31 高田 治樹 目白大学 か? (2) 先延ばしを低減するためのタイプ別教示とその効果 公立小・中学校教員のインクルーシブ教育に対する認 ○橋本 博文 安田女子大学 P23-32 前田 楓 安田女子大学 教員の被援助志向性と学校組織の協働性認知の交互 佐藤 剛介 名古屋大学 作用効果

○松本 明日香

小川 一美

斎藤 和志

愛知淑徳大学

愛知淑徳大学

愛知淑徳大学

ポスター発表 P23 第2日

P23-34	授業中の私語への複数教員による対応に関する態度 自分自身による対応への生徒の反応に着目して	○出口 拓彦	奈良教育大学
P23-35	世論調査の提示が情報探索に及ぼす影響	○安野 智子	中央大学
P23-36	日本の対米従属認識が利己主義的・拝金主義的人間 観に及ぼす影響	○林 幹也	明星大学